

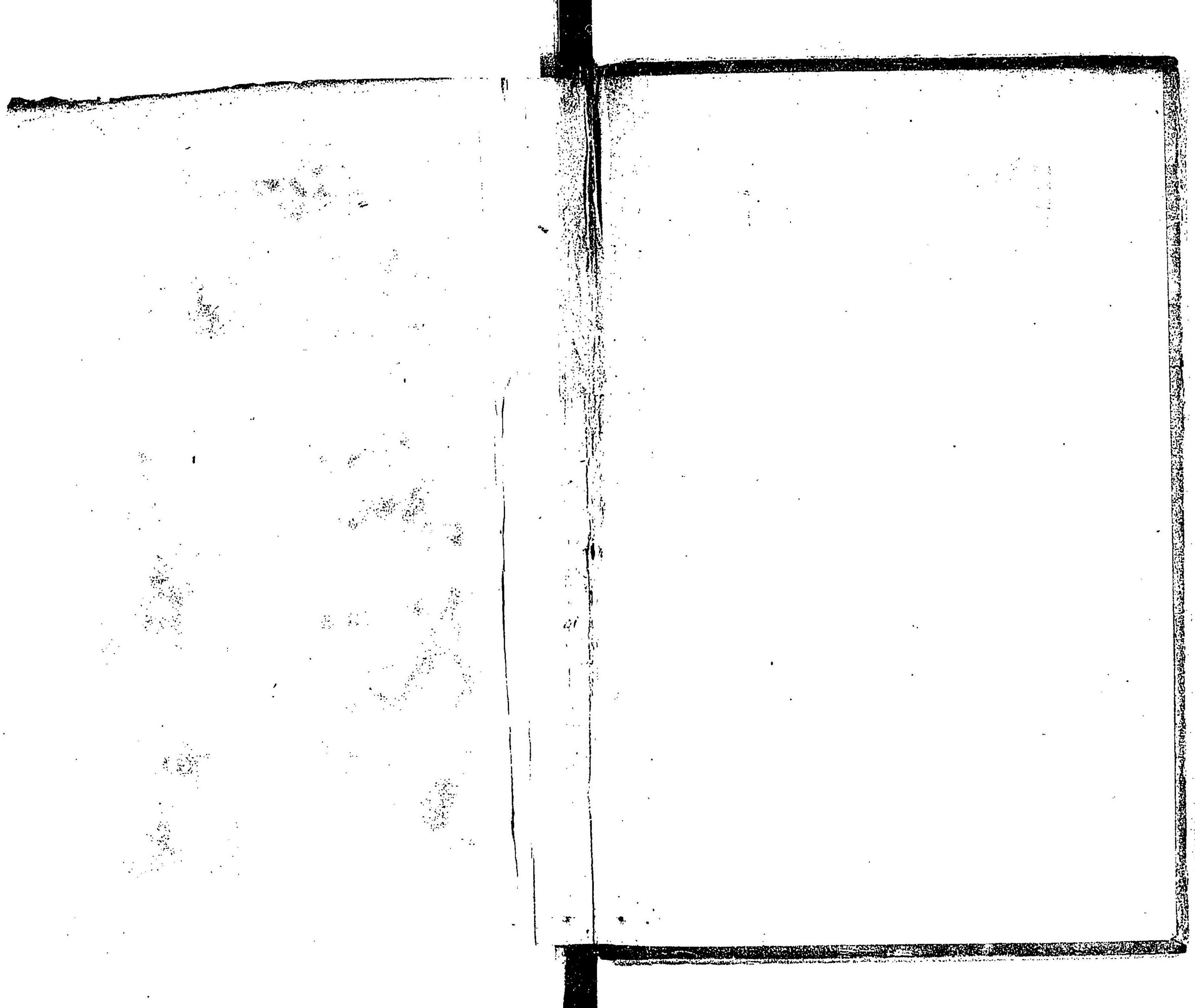
29

53

織田純一郎註釋

刑法附則註釋

明治十五年第一月廿三日版權免許



29-53

織田純一郎註釋

刑法附則註釋

明治十五年第一月廿三日版權免許

刑法附則註釋

緒言

刑法四百三十條、文簡ニシテ理深ク善ク、刑罰ト罪惡トノ權衡ヲ保テ全篇一モ欠漏アルナシ、蓋シ天下諸國ノ刑典能ク此右ニ出ルモノアラサルナリ、歐洲ノ諸國、概テ法律ノ完備スルヲ以テ名アリ、然レモ舊慣古例ニ從フモノ亦多ク、其法未ダ必シモ悉ク公道正理ニ基カサルナリ、中古以還ハ、ギソ、一、モ、ン、テ、ス、キ、ウ、等、輩、出、シ、テ、刑、罰、ノ、事、ヲ、詳、論、ス、ル、ニ、至、リ、諸、國、ノ、刑、典、稍、其、面、目、ヲ、一、變、ス、而、シ、テ、諸、氏、ノ、說、固、ト、相、同、ス、或、ハ、純、正、道、義、ヲ、唱、ヘ、或、ハ、社、會、公、益、ヲ、說、キ、各、自、ノ、カ、ラ、別、アリ、故、ニ、其、一、主、義、ニ、因、テ、以、テ、刑、典、ヲ、制、シ、タ、

東
書
書
書

緒言

ルモノハ自カラ偏僻ノ譏ヲ免カレヌ我刑法ハ純正道義及
ヒ社會公益ノ二說ヲ參酌折衷シテ其中ヲ採リ且天然ノ法
則ニ基ク是ヲ以テ通篇各條一トシテ公道正理ニ適セサル
ナシ是レ此法ノ天下諸國ノ刑典ニ讓ラサル所以ナリ然レ
モ刑法ハ素ト人民一般ニ待ツ所ノ法則ニシテ屢ハ變更ス
ヘキモノニ非ス故ニ時態ニ隨ヒ俱ニ變更ヲ要スヘキ條件
ハ除テ之ヲ記載セス是レ天下制法ノ通則ナリ明治十四年
十二月十九日太政官第六十七號ヲ以テ刑法附則ヲ布告セ
ラル凡ソ六十三條其記載スル所ノモノハ主刑執行、監視、假
出獄、及ヒ特別監視、刑事裁判費用賠償處分ニシテ皆刑法ニ
定メサル所ノ條件ナリ故ニ人或ハ曰ハン刑法ニ定メサル

所、今其附則ヲ以テ之ヲ補綴ス豈ニ刑法ニ欠漏ナシトセン
ヤト蓋シ其論誤ルモノナリ夫レ附則ヲ要スルハ刑法ニ欠
漏アルノ故ニ非スシテ刑法ニ記載ス可ラサル條件ヲ設ン
カ故ナリ夫ノ主刑執行、監視等ノ數事ハ其大綱ヲ已ニ刑法
ニ定ムト雖モ其細目ニ至テハ時態ノ變更ト共ニ之ヲ變更
セサルヲ得サルヲ以テ寧ロ之ヲ法律ニ定ムルヨリ之ヲ附
則ト爲スノ便且當ヲ得ルノ優レルニ如カサレハナリ故ニ
刑法ニ欠漏ナク附則ハ唯タ刑法ノ記載スヘカラサル所ノ
條件ヲ定メ以テ之ニ屬スルモノトス余嘗テ刑法註釋ヲ著
シ既ニ世人ノ觀ヲ忝フス故ニ今其附則ノ出ルニ臨ミ又將
ニ之ニ註釋ヲ加ヘテ以テ嚮ニ著シタル刑法ニ屬シ併セテ

其性質ヲ明ニセントス是レ政府ノ先ツ刑法ヲ頒布シ又其
 附則ヲ布告セラルノ意ニ習フモノニシテ敢テ此編ヲ公
 ニスル所以ナリ讀者其レ之ヲ諒セヨ

明治十五年二月上旬

織田純一郎 誌

刑法附則註釋

目次

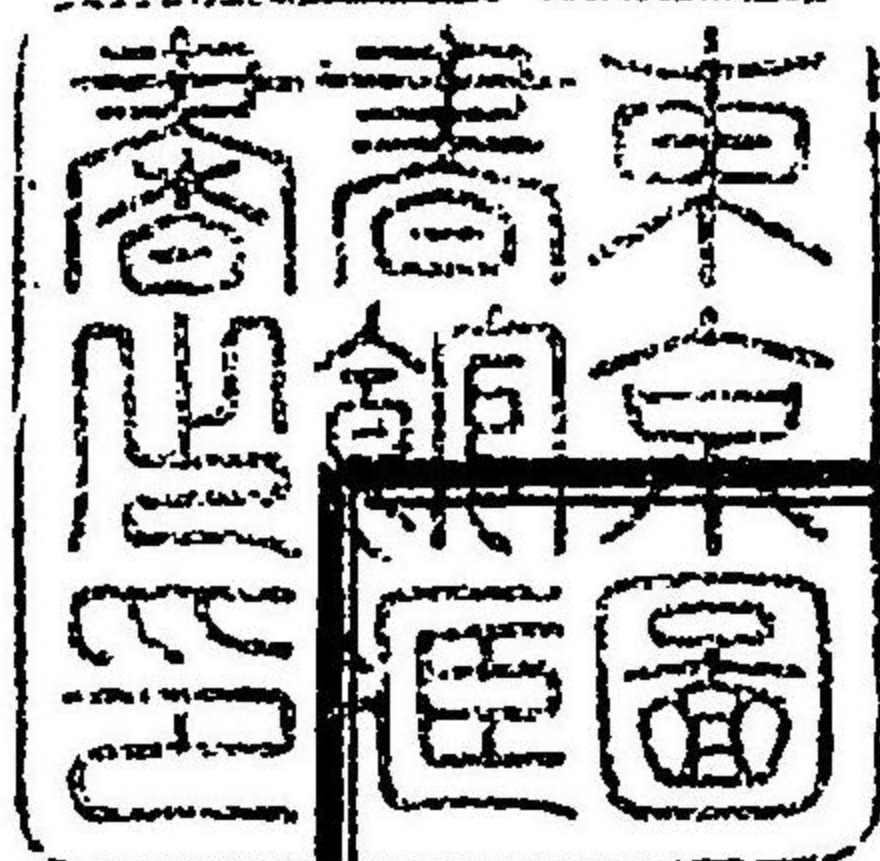
第一章 主刑執行 自第一條 至第二十條

第二章 監視 自第二十一條 至第三十七條

第三章 假出獄及特別監視 自第三十八條 至第四十七條

第四章 刑事裁判費用 自第四十八條 至第五十三條

第五章 賠償處分 自第五十四條 至第六十三條



刑法附則註釋

織田純一郎 註釋

刑法附則トハ刑法中記載スベカラザル細則ニシテ之ヲ實
施スルニ必要ナルモノヲ云フ故ニ其包含スル所ノモノハ
主刑執行、監視、假出獄、特別監視、刑事裁判費用及ヒ賠償處分
ニシテ之ヲ五章ニ分テ又各章ヲ數條ニ分テ全篇凡ソ六十
三條トス

○本則ハ刑法ヲ補充スル爲メニ設ケラルモノナリ蓋シ刑
法ニ記載スベキ規則ト記載スベカラザル規則アリ其記載
スベキト云フハ公道正理ニ基キ萬古不變ノ規則ナリ其記
載スベカラザルモノト云フハ實際ノ經驗ニ由テ定ムベキ
規則ナリ故ニ刑法中規則ヲ掲ケズシテ別ニ方法細目ノ制
設ヲ待ツモノ也ナカラズ即チ主刑執行ニ關スル規則犯罪

者ヲ刑後監視スルノ方法等是ナリ何トナレバ是等ハ正理ニ由テ設ルヨリ寧ロ實驗ニ由テ定ムルヲ便利ト爲セバナリ本則ハ實際ノ經驗上ヨリ設ル所ノ規則ニシテ刑法ヲ實施スルニ缺クベカラザルモノヲ蒐集シテ其附則ト爲シタルナリ

第一章 主刑執行

刑法第六條ニ刑ヲ二種ニ分テ主刑ト附加刑ト爲ス主刑ヲ三段ニ分テ三種ノ罪ニ應ズ重罪ノ主刑九アリ曰ク死刑曰ク無期徒刑曰ク有期徒刑曰ク無期徒刑曰ク有期徒刑曰ク重懲役曰ク輕懲役曰ク重禁錮曰ク輕禁錮是ナリ輕罪ノ主刑三アリ曰ク重禁錮曰ク輕禁錮曰罰金はナリ違警罪ノ主刑二アリ曰ク拘留曰ク科料是ナリ刑法第十一條ニ

刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムトアリ乃チ本章ハ主刑執行ニ關スル一切ノ規則ヲ定メタルナリ

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其期限ハ午前十時前トス

死刑ハ絞首ナリ死刑ノ宣告ヲ爲スハ裁判所ナリ其宣告確定シタル時ハ檢察官ヨリ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出シ其死刑ヲ執行スベキノ命令アルヲ待ツ其命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス而シテ檢察官ハ裁判所ニ屬スル官吏ニシテ刑ノ執行ヲ爲スハ其職務ノ一ナリ故ニ檢察官ハ必ス刑場ニ立會ヲ爲スモノトス書記モ亦裁判所ニ附屬スル

官吏ナリ常ニ訴訟事件ニ關シ筆墨ヲ執ルヲ以テ其職トス
故ニ刑場ニ立會ヒ死刑ノ執行果シテ其規則ニ適スルヤ否
ヲ記載シ其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名
捺印スルモノトス死刑宣告ヲ受ケタル囚人ハ監獄ニ留置
ス而シテ典獄ハ其監獄ノ長官ナリ故ニ刑場ニ莅^シ以下説
ク所ノ職務ヲ行フモノトス刑場ハ死刑ヲ執行スル處ナリ
監獄則第四十一條ニ死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以
テ外見ヲ防クベシトアリ是レ刑法第十二條但以下ニ死刑
ヲ獄内ニ於テ執行スルノ明文アルニ由ルナリ又同條ニ規
則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ云々トアルハ即チ此刑法附則
ニシテ其官吏トハ本條ニ定ムル所ノ檢察官、書記及ヒ典獄
是ナリ故ニ此等ノ官吏ハ刑場ニ立會ヒ典獄ハ囚人ニ死刑
ヲ執行スヘキヲ告示スルモノトス押丁ハ獄卒ナリ死刑

執行ノ言渡終リタル後囚人ヲ絞臺ニ致シ刑ヲ執行ス其時
限ハ午前十時前トス監獄則第三十二條ニ死刑ノ執行ハ午
前第十時ヲ過ルヲ得ストアリ是レ本條ニ於テ期限ヲ定ム
ル所以ナラン

○本條ハ死刑ヲ執行スル場合ヲ慮リタルナリ夫レ死刑ハ人
命ヲ絶ツモノニシテ一たび之ヲ行ハバ復タ回ヘス可カラ
ス故ニ其裁判言渡確定シタル後ト雖モ司法卿ノ命令アル
ニ非ザレバ之ヲ行フヲ得ザルモノトス是レ人命ヲ貴重ス
ルノ致ス所ナリ是ヲ以テ仮令ヒ司法卿ヨリ執行ノ命令ア
リタリト雖モ容易ニ執行ヲ爲サス必ス官吏ノ臨檢ヲ要シ
規則ニ定メタル手續ヲ爲シ然ル後執行スルモノトス是レ
本條ノ設アル所以ニシテ刑法第十一條ノ明文ニ照應スル
モノナリ佛蘭西國ノ法典ヲ見ルニ死刑ノ執行ヲ爲スニハ

其地方ノ警察官及ヒ控訴裁判所ノ書記刑場ニ立會ヒ行刑人ヲシテ之ヲ執行セシム其趣亦本條ト大ナル差異ナキカ如シ

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

前條ニ謂フ所ノ死刑ヲ執行スル時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴密ニスベキモノトシ監獄則第三十三條ニ死刑ノ執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムベシトアル是ナリ然レモ警戒ヲ嚴ニスルノ故ヲ以テ何人ト雖モ刑場ニ入ルトヲ許ササルニ非ス其執行ニ關スル者ハ刑場ノ門戸ニ於テ看守ニ入場ノ旨ヲ陳ベ然ル後刑場ニ入ルヲ得ベキナリ其執行ニ關スル者トハ立會官吏ノ外或ハ監獄ノ書記、押丁、醫

師等ノ類ナリ然レモ立會官吏即チ檢察官、典獄等ノ許可ヲ得タル者ハ亦入場スルヲ得此許可ヲ受クベキ者ハ其何人ニ拘ハラザルカ如シト雖モ多クハ是レ刑死者ノ親屬又ハ故舊ニシテ其遺骸ヲ請フ者ノ類ナリ蓋シ刑法第十六條ニ死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレバ之ヲ下付スルノ明文アリ故ニ遺骸ヲ請フ者アレバ立會ノ官吏其刑場ニ入ルヲ許スベキヤ必セリ

○本條ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニスベキヲ定ム夫レ人罪ナケレバ法律竊モ之ニ干渉スルヲナシト雖モ其罪アル如キハ須臾モ之ニ貸サス是レ天下ノ通則ナリ苟モ嫌疑アル者ニ對シテハ其有罪無罪ノ判然明白ナルニ至ルマデ法律ハ嚴ニ之カ警戒ヲ爲スベシ是ヲ未決者ト雖モ監倉ニ留置シテ其自由ヲ拘束シ罪ノ定マルヲ待タシメ罪已ニ定マレバ其

刑ノ執行ヲ嚴ニシテ刑罰ノ虛シカラザルヲ示ス若シ之ニ
 反シ犯罪者ヲノ徒ラニ裁判官渡ヲ受ケ而シテ其罰ヲ免カ
 レシムルコトアラバ法律ノ效用果シテ何レニ在ルヤ故ニ死
 刑ヲ行フ時ハ安リニ刑場ニ出入スルコトヲ許サス以テ刑ノ
 目的ヲ充分ニ遂ケシメント欲スルモノナリ佛蘭西國ノ法
 典ヲ觀ルニ死刑ヲ行フ時ハ巡查及ヒ騎兵ヲシテ刑場ノ周
 圍ヲ護衛セシメ人ノ刑場ニ接近スルコトヲ禁スト云ヒ又白
 耳義國ニ於テモ鎮臺兵ヲ以テ護衛セシムト云フ蓋シ是等
 ハ死刑ヲ公行シ本邦ハ死刑ヲ公行セス其間多少ノ差異ナ
 キニ非スト雖モ其刑ヲ行フニ於テ嚴肅ナルヲ要スルハ彼
 我共ニ異ナラザルヲ見ルベキナリ

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立
 會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事

局ニ納ム可シ

治罪法第四百六十三條ニ死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末
 書ヲ作り刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ
 署名捺印ス可シトアリ即チ本條ニ所謂ル死刑ノ執行畢リ
 タル時云云蓋シ亦同一ノ精神ニ出ルモノナリ書記ハ即チ
 第一條ニ謂フ所ノ死刑ノ執行ヲ爲ス裁判所ノ書記ニシテ
 立會官吏ハ其檢察官及ヒ典獄ナリ書記刑場ニ從ミ第一條
 第四條第六條等ニ定メタル規則ニ從ヒ死刑ヲ行ヒタル事
 ヲ遺漏ナシ記載シテ一冊ノ書ヲ作ルベシ之ヲ名ケテ始末
 書ト云フ而シテ其始末書ニハ立會官吏即チ檢察官書記及
 ヒ典獄ノ三名各共ニ署名捺印シテ其規則ニ從ヒタルコトヲ
 證明シ而シテ後之ヲ刑ノ宣告シタル裁判所ノ檢事局ニ差出
 スベキモノトス此場合ニ於テ典獄ハ監獄則第三十三條ニ

十
從ヒ刑死者ノ本籍ノ戶長及ヒ近地ノ親屬若シハ故舊ニ其旨ヲ通知シ且ツ其監署ニ領置シタル貨物ノ處分ヲ爲スベキモノトス

○本條ハ死刑ノ執行ヲ爲スニ付キ書記ノ職務ヲ定メタルナリ夫レ死刑ハ注刑中最重ノモノナリ故ニ其執行ハ爾餘ノ刑ヲ執行スルニ於ケルヨリ最モ鄭重ニ之ヲ檢視スベシ是ヲ以テ法律ハ死刑執行ノ始末書ヲ作り其刑死者ノ氏名、年齡、族籍及ヒ罪名並ニ執行ヲ爲シタル年月日又執行ニ付キ本章ニ定ムル所ノ規則ヲ履行シタル事等ヲ記載シ立會官更ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納メ一ハ以テ裁判言渡ニ從ヒ刑ノ執行ヲ爲シタルヲ他日ニ證明スルヲ得セシメ一ハ以テ刑死者ノ人違如何ニ關シタル紛議アレバ一觀之ヲ定ムルノ證書ヲラシムルモノナリ蓋シ治罪

法第四百六十三條第一項ニ於テ殊ニ死刑執行ノ事ヲ掲ゲタル所以ノモノハ亦是ニ在ル乎

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

刑法第十四條ニ大祀、令節、國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ストアリ故ニ本條ハ其大祀、令節、國祭ノ日ヲ定メ第十四條ノ指示スル所ヲ明ニス即チ左ノ如シ

元始祭 孝明天皇祭

紀元節 春季皇靈祭

仁孝天皇祭 神武天皇祭

六月大祀 秋季皇靈祭

神宮神嘗祭 天長節

後桃園天皇祭 新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

大祀トハ元始祭、六月大祓、神宮神嘗祭、新嘗祭、十二月大祓ヲ云ヒ國祭トハ孝明天皇祭、春季皇靈祭、仁孝天皇祭、神武天皇祭、秋季皇靈祭、後桃園天皇祭、光格天皇祭ヲ云フ令節トハ紀元節、天長節ヲ云フ此他大祀、國祭等アリ然レモ此ニ掲ル十四箇ノ祭日ニ於テハ死刑ヲ行フベカラザルモノトス蓋シ刑法ニ於テ定ムル所ニ從フナリ

○本條ハ死刑ヲ行フヘカラサル日ヲ定ム夫レ死刑ハ人命ヲ絶ツモノナリ故ニ刑死者ノ親屬其刑ニ處セラレタルニ於テハ哀戚ノ情ニ堪ヘズ悲歎限リナカルヘシ是レ人情ノ防シヘカラサル所ナリ夫レ大祀、令節、國祭ハ社會一般ノ祝日ナリ故ニ全國人民ハ此等ノ日ヲ以テ祝賀ヲ陳ヘ慶筵ヲ開キ萬歲ヲ唱ヘサルハナシ亦人性ノ然ラサルヲ得サル所ナリ

リ死刑ノ果效ト祭祀ノ果效ト相反スルニ是ノ如シ然ルヲ死刑ハ法律ノ令スル所ナリ司法卿ノ命令アルニ於テハ亦何ゾ日ヲ擇ハント爲シテ社會ノ祝日ニ死刑ヲ行ヘハ刑死者ノ親屬ヲシテ祝愛ヲ混同セシムルノ恐アリ是レ法律ノ精神ト大ニ異反スルモノナリ故ニ本條ハ十四ノ祭日ニ於テハ死刑ノ執行ヲ爲スヘカラスト定メ人ノ喜憂ヲシテ分難セシメタルナリ

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

刑法第十五條ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分産後一百日ヲ經ルニ非ザレバ刑ヲ行ハズ

トアリ而シテ其懐胎ト否トヲ検査スルハ何人ノ職務ニ属スルヤヲ定メズ故ニ本條ハ婦女懐胎ナルヲ申立ル時ハ醫師及ヒ穩婆^{トリアンバ}ヲシテ之ヲ検査セシムベキヲ定ム醫師ハ内務省乙第十五號達監署雜則並ニ書記看守長以下分掌例ニ謂ヘル所ノ醫師ニシテ穩婆ハ其職業ノ免許ヲ得タル者ヲ臨機用ヒテ豫メ之ヲ定メス此等ノ者婦女ヲ検査シ果シテ懐胎ナルヲ認ムレバ其旨ヲ檢察官ニ申立ツヘキモノトス檢察官ハ其中立ニ由リ之ヲ司法卿ニ上申シテ刑ノ執行ヲ停メシヲ請求シ司法卿ハ其上申スル所ニ由テ之ヲ許ス是レ刑法第十三條ノ設アルニ因ルナリ既ニ司法卿ノ許可アレハ檢察官ハ其旨ヲ典獄ニ通知シ典獄ハ婦女ヲ病室ニ置キ分娩セシム病室ハ監獄則第七十五條ニ記載スル所ノモノニシテ其制ハ女監内ニ一室ヲ設ケ空氣ノ流通ヲ

善クシ専ラ健康ニ備フ婦女分娩後一百日ヲ經過スルヲ待テ檢察官ハ更ニ司法卿ニ刑ノ執行ヲ爲スベキヤ否ヲ訊ヒ其命令ヲ受ケテ之ヲ執行スベキモノトス

○本條ハ刑ハ一人ニ止マルノ原則ヨリ湧出スルモノナリ古昔ノ法典ヲ觀ルニ洋ノ東西ヲ問ハス皆刑ヲ三族若クハ九族ニ及ボシ一人罪ヲ犯セハ數人連坐シテ共ニ刑ヲ受ケタリ是レ人文未開ノ時、法理悉ラカナラサルノ致ス所ナリト雖モ其理義ニ闕ラキ亦甚シト謂フベキナリ中古ニ至リ刑一人ニ止マルノ原則ヲ發見シ漸ク古昔ノ蠻風ヲ一掃スルヲ得シリ故ニ本條ハ此原則ヲ遵守シ母ニ罪アルノ故ヲ以テ其子ヲ俱ニ刑セス分娩ノ後ト雖モ一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令アルヲ待ツモノトス蓋シ婦女ハ一時ノ憤怒若クハ嫉惡ニ煽動セラレ最重ノ罪ヲ犯スト雖モ一旦捕ニ就

キ裁判已ニ決スル如キハ前非ヲ悔悟シテ已マザルノ痴情
アルハ常ニ看ル所ナリ況ヤ其身懷胎シテ赤子ノ胎中ニ在
ルノ時ヲヤ又況ヤ分娩シテ未タ幾何ナラズ其兒ヲ遺シテ
死刑ニ就クノ期迫レル時ニ於テヲヤ悲痛斷腸哀情ヲ訴フ
ル所ナク實ニ前日ノ罪過ヲ悔ユヘキヤ必セリ此心遂ニ將
來ノ遷善感化ヲ爲スノ基礎トナルベキヲ以テ特赦ノ恩典
ヲ辱フスルノ幸福ヲ享クルコトナシト爲サス蓋シ法律ハ犯
罪者ヲ懲罰シテ天然ノ良性ニ復歸セシムルヲ主トス若シ
其懲罰ノ效顯著ナルハ刑ノ幾等ヲ減輕スルモ敢テ妨ナ
カルベシ是レ本條ノ設ケアル所以ナラン

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請

フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下附スルコトヲ得

刑死者ノ遺骸ハ或ハ之ヲ監署ニ於テ處分シ又ハ之ヲ其親

屬ニ委スルモノトス監署ニ於テ其處分ヲ爲スルハ一定ノ
葬場ヲ撰ミ此ニ之ヲ埋ム然レモ監獄則第三十三條ニ刑死
者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍
ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ云云トア
リ故ニ刑死者ノ親屬故舊ハ此通知ヲ得テ處刑アリタルコ
トヲ知ルヲ得ベシ因テ若シ親屬故舊刑法第十六條ノ明文ニ
從ヒ刑死者ノ遺骸ヲ請フトキハ通知アリタルヨリ二十四
時内ニ之ヲ爲スベシ典獄此請求ヲ受ケタルトキハ死刑執
行ノ後二分時ヲ過ギザレバ遺骸ヲ下附スルコトヲ得ズ若シ
之ヲ下付スルルハ請求者ヲシテ簿冊ニ署名捺印若クハ花
押セシムベシ是レ監獄則第三十二條第二項及ヒ第七十九
條第一項ノ規則ニ從フモノナリ然レモ遺骸ヲ請フノ親屬
故舊ナキトキハ前既ニ説ルガ如ク監署ニ於テ埋葬ノ處分

ヲ爲スベシ此場合ニ於テハ遺骸ヲ棺ニ入レテ仮葬シ其上
 ニ氏名標ヲ建ツベシ若シ假葬ノ後親屬故舊遺骸ヲ請フモ
 ハ明治十四年三月内務省乙達監署雜則第四條ノ例ニ從フ
 ○本條ハ刑死者ノ遺骸處分ヲ定ム夫レ罪ハ犯罪者ノ死亡ト
 俱ニ消滅スルヲ以テ原則トス彼ノ古昔葬後ノ死屍ヲ掘テ
 之ヲ撻チ又ハ死刑ニ該ルヘキ者ノ遺骸ヲ露ラヌガ如キ皆
 公道正理ニ悖戻スルモノニシテ今日復タ此般ノ事ナカル
 ベシ然レモ事理ヲ解セザル者妄想ヲ爲シテ曰ハシ死刑ニ
 處セラレタル者ノ遺骸ハ其死前犯罪者ナルノ故ヲ以テ死
 後之ヲ埋葬スルコトナク野死ノ犬馬ト同シク鳥類ノ啄ム所
 ニ任セルナラント若シ刑死者ノ親屬故舊此言ヲ聽カバ悲
 哀ノ情ニ堪ヘズ法律ノ苛酷ヲ恨ムノ弊ナシト爲サズ故ニ
 刑法ニ遺骸ヲ下付スル正條ヲ掲ケ監獄則ニ遺骸ヲ仮葬ス

ルノ明文ヲ記シ以テ罪ハ其犯人ノ死亡ト俱ニ消滅スルノ
 原則ヲ明ニシ妄想説ノ非ナルヲ示セリ今亦此附則ニ於テ
 刑法及ヒ監獄則ノ意義ヲ合一シ更ニ原則ノ精神ヲ明示ス
 是レ本條ノ設アル所以ナリ

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニ

テモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得

監獄則第八十八條ニ死刑ノ言渡ヲ受ケタル囚徒ニ其親屬
 故舊面會セント請フトキハ典獄之ヲ許スノ明文アリ是レ
 親屬ニ就テ定ムル所ノ規則ニシテ囚徒ヨリ其親屬ニ面會
 セント請フノ点ニ至テハ文外ノ意ヲ以テ之ヲ示スニ過ギ
 ザルナリ其囚徒ノ請求ニ係ルモノハ即チ本條ヲ主トシテ
 之ヲ明示ス故ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ執行ニ至マテ
 其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得ルモノトス然レモ其接見ヲ

爲スニ何時ニテモ典獄ノ許可ヲ得ルモノト謂フベカラス
 典獄ハ受刑者ノ請求ニ由リ接見ノ日時ヲ定メテ之ヲ許シ
 其時間ハ五十分時ヲ過ルコトヲ得ス接見ハ監房内ニ於テ
 セス監獄則第三十九條ニ所謂ル接見室ニ於テス其構造ハ
 一室ヲ監舎ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ
 縱横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許リヲ隔テ柵欄ヲ設ケ在
 監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシムル
 ノ制ナリ

○本條ハ死刑ノ宣告ヲ受ケタル者其親屬故舊ニ接見スル場
 合ヲ定ム監獄則ニ據ルニ凡ソ在監人ハ未決、已決、懲治人ノ
 別ナク皆其親屬故舊ニ面會スルコトヲ許セリ就中重罪ノ刑
 ヲ受ケ北海道ニ押送セラレ若シクハ死刑ニ處セラレ、者
 ハ殊更ニ其親屬又ハ故舊ニ面會スルコトヲ許セリ蓋シ北海

道ニ押送セラレ、者ハ刑期滿限ノ後ト雖モ其地ニ住居ス
 ベキヲ以テ或ハ復タ親屬故舊ト相見ルノ期ナキモ知ルベ
 カラス況ヤ死刑ニ處セラレヘキ者ハ其執行ノ日ヲ以テ親
 屬故舊ト永訣ノ日ト爲スヲヤ若シ父兄アレバ之ニ面會シ
 テ生來ノ恩ニ謝シ妻子アレバ之ニ接見シテ現世ノ別ヲ告
 ケ故舊知己モ亦訣別ノ會ナカルベカラス是レ法律ノ囚徒
 ニ貸ス所ノ意ニシテ監獄則第八十八條及ヒ本條ノ設ケア
 ル所以ナリ

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業
 住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス
 ヘシ

死刑ハ容易ニ行フベカラス之ヲ行フキハ其受刑者ノ何人
 ナルコトヲ證明セザルベカラス故ニ犯人ノ屬籍、氏名等ヲ榜

示公告スベキモノトス其屬籍ハ其管屬本籍ヲ明ニシテ其
 氏名ハ犯人ノ誰タルヲ示シ其年齢職業住所ハ犯人ノ人違
 ナキヲ確證センガ爲メニ掲グルモノナリ其罪狀ハ犯罪ノ
 性質大惡ニシテ道義ニ悖リ公益ヲ害シ死ニ非ザレハ其罪
 ヲ償フ能ハザルヲ知ラシメ因テ刑法ノ正條ニ照シテ其
 刑ニ處スルヲ公告ス而シテ其公告ハ左ニ掲グル各所ニ
 榜示スルモノトス

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前トハ重罪裁判所ノ門前ヲ云
 ヒ犯人住居ノ地トハ犯人罪ヲ犯シタル際住居シタル地ヲ
 云ヒ本籍又ハ寄留如何ニ拘ハラザルモノナリ

○本條ハ刑死者アリタルヲ天下ニ公告スルヲ定ム夫レ刑
 ヲ宣告スルハ裁判所ノ職務ナリト雖モ犯人ノ罪アルヲ
 證明シ刑ノ適用ヲ求ムル者ナケレバ裁判所ハ其職權ヲ行
 フ能ハザルナリ而シテ其犯罪ヲ證明シ刑ノ適用ヲ求ムル
 モノハ社會公衆トス是レ治罪法第一條ニ於テ見ル所ナリ
 裁判所既ニ公訴ヲ受理シ其審判及ヒ刑ノ宣告ヲ爲シ其執
 行ヲ爲シタルキハ公訴ノ目的ヲ達セシメタルモノナリト
 雖モ是レ僅ニ檢察官ガ知了シタルニ過ギスシテ實際ニ於
 テハ社會公衆ハ何人ノ刑ニ處セラレ又其刑ノ當ヲ得タル
 ヤ否ヲ知ルヲ得ス果シテ然ラハ此間多少ノ嫌疑ヲ介スル
 ノ恐ナシト謂フベカラス故ニ死刑ヲ行ヒタル時ハ犯人ノ
 屬籍、氏名、年齢、職業、住所及ヒ其罪狀、刑名ヲ記載シテ之ヲ榜
 示公告シ以テ社會公衆ヲシテ其會テ檢察官ヲ經由シテ公

訴ヲ起シタル事件ノ落着ヲ知ラシムヘキモノトス蓋シ是
ノ正明公平ヲ維持スル爲メニシテ即チ本條精神ノ在ル所
ナリ

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監獄
官吏長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ
護送ス可シ

監獄則第一條第六款ニ集治監ハ徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ
處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス而シテ北海道ニ在ル
本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ストアリ故ニ徒
刑流刑ノ囚ハ北海道ニ發遣スルモノナリ而シテ其發遣ハ
一囚エトニ之ヲ爲サズ裁判アリタル地ノ監獄官吏長官即
チ東京ニ在テハ警視總監府縣ニ在テハ知事令宣告書ノ際
書ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從フモノトス内務卿

ハ其中報ヲ得テ北海道ニ押送スヘキ囚徒ノ員數三十名乃
至五十名ニ達スルヲ待テ其旨ヲ北海道ノ集治監ニ通知シ
囚徒受取ノ爲メ本監ノ官吏ヲシテ出張セシム北海道集治
監ハ監獄則第五十九條ノ規則ニ從ヒ内務卿ノ通知アルヤ
直チニ官吏ヲシテ派出セシム其官吏ノ到着スルヤ内務卿
ハ嚮ニ宣告書ノ謄書ヲ具シテ發遣ノ事ヲ申報シタル監獄
官吏長官ニ囚徒受取ノ官吏既ニ出張シテ某ノ港ニ在レバ
囚徒ヲ押送スヘキ旨ヲ通知ス監獄官吏長官等此命令ヲ得
テ監獄則第五十八條第二項ニ所謂ル北海道集治監ニ於テ
管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ派出シタル地マデ
押送スヘキモノトスノ規則ニ從ヒ本條謂フ所ノ發船ノ地
ニ囚徒ヲ護送ス可シ其護送スルニハ監獄則第六十條ニ從
ヒ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツベシ但船中ニ在テハ此

限ニ在ラス

○本條ハ徒刑流刑ノ囚ヲ發遣スル規則ヲ定ム夫レ在監人刑ノ言渡ヲ受ルマデハ司法卿ノ管轄ニ屬スト雖モ既ニ其官渡ヲ受ケタル後ハ内務卿ノ統轄スル所ト爲ル蓋シ受刑後ハ監獄ニ在テ其規則ニ拘束セラルベシ而シテ監獄ハ總テ内務卿ノ管轄スル所ナレバナリ且ツ徒刑流刑ノ囚ハ島地ノ集治監ニ押送スベキモノニシテ其集治監ハ内務卿ノ直轄ニ屬ス是レ監獄則第三條ニ於テ定ムル所ナリ故ニ徒刑流刑ノ言渡ヲ受ケタル囚徒アルトキハ監獄官吏長官ヨリ内務卿ニ上申スルモノトス内務卿ハ其上申ニ由テ押送スベキ囚徒アルコトヲ知り其稍ヤ多數ナルニ及テ押送ノ命ヲ下ダスモノトス何トナレバ數百里ノ遠路ヲ一囚ニ送スルハ費用ヲ増殖スルノ恐アレバナリ是レ本條ノ設ア

ル所以ナリ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

刑法第十七條ニ徒刑ハ無期有期ヲ分ク島地ニ發遣シ定役ニ服ストアリ故ニ徒刑ノ定役ニ服スベキハ明瞭ナリト雖モ其獄内ニ於テ服役スルカ又ハ獄外ニ於テスルカ未タ之ヲ定メス監獄則第四十二條第二項ニ若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムル云云トアリト雖モ其字面ヨリ之ヲ觀レバ固ヨリ正則ト爲スニ足ラス亦未タ判然タル變則トモ謂フベカラザルガ如キアリ本條ニ於テ始テ徒刑ノ囚ヲ外役ニ服スルコトヲ定メタリ而シテ外役ニ服スルハ便宜ニ從フモノトス便宜トハ何ツヤ曰ク囚徒中老幼強弱ノ差別アリ若シ滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後

ノ疲勞若シハ身体ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘザル者又ハ外
 役ニ於テ會テ逃亡ヲ試ミ尙ホ其目的ヲ遂ントスルノ恐
 アル者或ハ獄外ニ出テ世人ニ面接スルニ因リ危險ヲ生ズ
 ルノ恐レアル者ノ如キハ外役ニ服スベカラザルモノ是ナ
 リ故ニ一概ニ徒刑ノ囚ハ則チ外役ニ服スモノト爲スベカ
 ラス其便宜ニ從フテ處置ヲ爲スベシ其外役ニ服セシムル
 キハ鐵鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス必ス笠ヲ用
 テ其面ヲ掩ハシメ一組ヲ十八人以上、十五人以下ト定メ看守
 一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシムルモノトス是レ監
 獄則第四十二條ニ於テ定ムル所ナリ

○本條ハ徒刑ノ囚ヲ外役ニ服スルヲ定ム監獄則第四十二條
 ニ定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ云々ト
 アリ夫レ徒刑ノ言渡ヲ受ル者ハ無期有期ヲ問ハス皆兇惡

ノ甚シキ罪ヲ犯シタルモノナリ故ニ之ニ懲罰ヲ加ヘテ以
 テ其遷善悔悟ヲ將來ニ期セザルベカラス而シテ懲罰ヲ加
 フルハ啗ニ徒刑ノ囚ノミナラス懲役及ヒ重禁錮ノ囚モ亦
 然リ今若シ重罪ヲ犯シタル者モ輕罪ヲ犯シタル者モ之ヲ
 懲罰スルハ一ナリトシテ同一ノ作業ヲ與ヘ同一ノ定役ニ
 服セシムルキハ懲罰ノ輕重其度ヲ失フモノト謂フ可シ故
 ニ適度ノ懲罰ヲ與ヘント欲セバ重禁錮ハ懲役ヨリ輕ク懲
 役ハ徒刑ヨリ輕キ作業ヲ與ヘザルヲ得ス而シテ作業ノ重
 キモノハ獄内ニ在ラス彼ノ鑛業ニ從事シ溝河ヲ堀浚スル
 等皆獄外ニ於テ爲スモノトス是レ徒刑ノ囚ヲ外役ニ服ス
 ル所以ニシテ監獄則第四十二條ニ所謂ル刑名ニ因テ斟酌
 スルモノナリ

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サン

ト請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

刑法第二十條ニ流刑ハ無期有期ヲ分ク島地ノ獄ニ幽閉
 シ定役ニ服セストアリ蓋シ流刑ハ國事犯者ノ刑ナルヲ以
 テ常事犯ト同一ナル苛酷ノ性質ヲ有セシムヘカラザルニ
 由ルナリ然レモ既ニ國事犯ノ罪アリ若シ其罪アル者ヲシ
 テ人民輻輳ノ地ニ在ラシメハ一朝事アルノ日ニ際シ兇徒
 ノ爲メ獄ヲ解カルノ恐ナキニ非ス故ニ之ヲ遠地ニ流シ
 テ其親屬故舊其他ノ者ヨリ隔絶セシメタルナリ而シテ島
 地ニ於テモ亦猶ホ逃亡ノ憂ヲ防ガザルベカラス故ニ島地
 ノ獄内ニ幽閉スルモノトス是レ茲ニ幽閉中獄内云云ノ字
 ヲ揭ケタル所以ナリ此ノ如ク獄内ニ幽閉セラレト雖モ
 前既ニ説ケルガ如ク法律ハ流刑ノ囚ヲシテ定役ニ服セシ
 メザルヲ以テ無聊ニ堪ヘス自カラ工業ヲ作サント請フ者

ナキニ非ス其自カラ工業ヲ作ント請フ者ハ徒ラニ流刑者
 ノ發意スルヲ待ニ非ス監獄則第四十六條ニ據ルニ定役ニ
 服セザル囚徒ト雖モ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計
 リ攝生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムル
 ヲ要ス云云トアリ故ニ典獄ハ流刑囚ノ工業ヲ爲サント請
 フニ於テハ其平素勸誘スル所ノ結果ナルヲ以テ之ニ許ス
 ベキモノトス而シテ其工業ノ種別ハ典獄ノ指示スル所ニ
 シテ自カラ徒刑ノ囚ト異ナルヘシ思フニ多クハ農業ニ服
 セシムルナラシメ蓋シ農事ハ身軀ヲ健康ニシ心術ヲ改良シ
 且ツ國益ヲ起スベケレバナリ

○本條ハ流刑ノ囚ニ就役ヲ許スヲ定ム夫レ工業ハ開化ヲ進
 メ國益ヲ起スノ美事ニシテ良民ハ孜孜之ニ勉メ或ハ以テ
 一身ヲ起シ或ハ以テ一家ヲ維持シ八世缺クベカラザル所

ノモノナリ故ニ犯罪者ヲ懲罰スルニ此工業ヲ以テシ其會
 テ懶惰偷安正業ヲ勉メザルヨリ竟ニ罪辟ニ陥リタルヲ
 悟ラシメ又既ニ其身ハ刑期中ニシテ良民ト比肩シテ同一
 ノ權理ヲ享有スベキニ非ズト雖モ唯々此工業ヲ爲スノ一
 事ニ至テハ良民ト敢テ異ナルヲナキノ榮ヲ感ゼシムルモ
 ノトス若シ夫レ囚徒ヲシテ工業ハ犯罪者ヲ懲罰スル苛酷
 ノ刑ナリト想ハシムレバ良民ハ常ニ苛酷ノ刑ニ處セラレ
 マリト謂ハザルヲ得ス天下豈ニ此ノ如キ理アラシヤ故ニ
 囚徒ノ工業ニ於ケルハ猶ホ良民ノ政權ニ於ケルカ如ク一
 身ヲ保護シテ前途ノ安堵ヲ計ルモノナリ其レ然リ既ニ然
 ラハ國事犯ノ道義ヲ毀損スル甚ナキ者ト雖モ良民ノ常ニ
 樂テ爲ス所ノ工業ニ就クニ於テ何ノ妨カ之レアラシヤ否ナ
 妨ナキノミナラス國事犯者ニシテ而シテ之ヲ爲スベキナ

リ然レモ法律ハ國事犯者ヲ認メテ以テ特別ノ者ト爲スニ
 因リ之ニ待スルモ亦特別ノ刑ヲ以テシテ工業ニ服セス其
 意蓋シ強テ工業ヲ以テ人生ノ理ヲ告示セザルモ國事犯者
 ハ既ニ業ニ其理ヲ了解シタルモノト認ムルナラシ故ニ本
 條ハ流刑ノ囚ニ就業ヲ請求スル時ハ之ヲ許スベキヲ定
 ヲリ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ
 内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

刑法第二十一條ニ無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレバ行政ノ
 處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムル
 一ヲ得有期流刑ノ者三年ヲ經過スル者亦同シトアリ蓋シ
 流刑ノ囚能ク獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀アル者ハ行政處分ヲ
 以テ幽閉ヲ免ズル制アルニ由ル然レモ流刑ノ囚徒三年若

クハ五年ヲ經過シタルヲ以テ必スシモ此恩典ヲ享クルヲ得ス抑此恩典ハ法律ノ定ムル所ニ非ス典獄常ニ囚徒ノ行狀ヲ看テ之ニ賞譽ヲ與ヘ賞譽ノ數稍ヤ多キヲ加ヘ仮令ヒ獄外ニ在テ身親カラ事ヲ爲サシムルモ決シテ再犯ノ不幸ニ陷ルノ恐レナキモノト認定シタル上ニ非ザレハ與フルモノニ非ス而シテ典獄ハ獨斷ヲ以テ幽閉ヲ免スルノ權ナシ前陳ノ狀アルニ因リ幽閉ヲ免スヘキヲ内務司法ノ兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ルニ非ザレハ之ヲ免スルヲ得ス内務司法ノ兩卿ニ上申スル所以ノモノハ監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬スルヲ以テ其指揮ヲ受ケザルヲ得ス而シテ治罪法第四百七十七條ニ據ルニ特赦ハ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルモノト爲セバ免幽閉モ亦此精神ニ因リ司法卿ニ具狀シテ其指揮ヲ待ツモノトセリ

蓋シ兩卿ハ上申ヲ得テ相共ニ協議シ免幽閉如何ヲ決スルナラン

○本條ハ免幽閉ノ手續ヲ定ム刑法ニ於テ流刑ノ囚ニ幽閉ヲ免スルヲ記載スルト雖モ規則ニ定ムル年限ヲ經過スレバ典獄自カラ之ヲ免スルモノカ又或ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ免スルモノカ明文ヲ掲ケス又監獄則ニ於テ賞表ハ假出獄免幽閉ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得トノミ記載シテ其具狀スル所ヲ定メス唯タ監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬スルヲ以テ多クハ内務卿ニ具狀スルナラント推測ヲ下ダスニ過ギス又治罪法ニ據ルニ特赦ハ檢察官又ハ監獄長ヨリ司法卿ニ具狀スルモノトノミアリテ免幽閉ノ事ヲ掲ゲス亦唯タ或ハ免幽閉モ此精神ニ因テ司法卿ニ具申スヘキ者ト想像スルノミ此等ハ皆ナ隔靴ノ憾ナキ能

ハス故ニ此附則ニ於テ免幽閉ハ典獄ヨリ之ヲ具狀シ内務卿司法卿協議シテ之ヲ許スモノト斷定セリ其兩卿ニ上申スベキ理由ハ前既ニ之レヲ説明スルヲ以テ復タ此ニ再言セズ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

刑法第五十三條ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後、行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得其第二項ニ無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シトアリ蓋シ此恩典ヲ約シテ以テ囚徒入獄ノ日ヨリ改心遷善ノ意ヲ發セシムルモノナリ故ニ徒刑ノ囚ハ品行方正ニシテ規則ニ定ム

ル期限ヲ經過スレバ假ニ監獄ヲ出ルノ恩典ヲ受クベシ又流刑ノ囚ハ此假出獄ノ恩典ヲ受ケズト雖モ前條既ニ説ルカ如ク免幽閉ノ恩典ヲ受クベシ故ニ此等ノ囚ハ監外ニ住居スルヲ得ルト雖モ其家ナキトキハ監署ニ於テ之ヲ構造シ貸與スベキモノトス是レ監獄則第六十一條ニ於テ定ムル所ナリ既ニ一家ヲ成シ營生ノ方法ヲ立ツ若シ家屬ナキ時ハ爲メニ放肆ニ流ルノ恐ナキニ非ス故ニ家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スヲ得ルモノトス然レモ囚徒ノ請求スルニ任セ之ヲ許可スルニ非ス典獄ハ監獄則第二十八條ニ從ヒ常ニ假出獄、免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者ノ營業ノ方法ヲ指示スルヲ以テ此請求ヲ爲シタル時ニ於テ將來營生ノ方法ヲ取糺シ家屬ト同居スルモ爲メニ貧困ニ陥ルナキヤ否ヲ量定シテ而シテ後之ヲ許スベキモノト

ス此ニ家屬ト云フハ畜タ父母及ヒ既娶ノ妻若クハ子ヲ指
スノミナラス亦典獄ノ許可ヲ得テ嫁娶ヲ爲スモ含蓄スル
所ナリ但其路費ハ自辨スベキモノトス

○本條ハ假出獄免幽閉ヲ受ケタル囚ニ家屬ヲ招クヲ許ス
場合ヲ定ム監獄則第一條ニ於テ徒刑流刑ノ者ハ北海道ノ
集治監ニ入ルノ規則ヲ設ケラレタリ其意ノ在ル所ヲ探
ルニ蓋シ植民ノ主義ニ外ナラザルガ如シ夫レ民ハ國ノ本
ナリ民ナケレバ國アルモ亦何ノ用ヲカ爲サン我ガ北海道
諸州ハ氣候酷寒ナリト雖モ地土惡キニ非ス耕シテ以テ千
里ノ沃野ヲ得ヘク掘シテ以テ巨萬ノ鑛物ヲ得ヘシ唯々土
着人民ノ不足ヲ憂フルノミ然レモ本州ニ在ル人民ヲ驅テ
北海道ニ遣ル能ハス人民モ亦我ガ郷關ヲ去テ北地ニ入ル
ヲ好マス故ニ重罪ヲ犯ノ徒刑又ハ流刑ニ處セラレタル者

ヲ押送シ以テ北地ノ人民ヲ繁殖セシム是レ假出獄免幽閉
ヲ徒刑流刑ノ者ニ與ヘテ島地ニ居住セシムル所以ノ一ナ
リ其レ然リ既ニ然ラハ此精神ヲ推シテ假出獄免幽閉ヲ受
ケタル者ニ其家屬ヲ招キ或ハ嫁娶ヲ爲スヲ許スベキハ
當然ノ理ナリ否ラザレバ却テ放肆不良ノ念ヲ萌シ再ビ罪
辟ニ陷ルノ恐アリ又否ラザレバ人民繁殖ノ基ニ乏シ植
民ノ精神ニ背クノ恐アリ是レ本條ノ設アル所以ノ理ナリ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者
ハ監獄近傍ノ地ヲ限り典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ已ム
ヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

刑法第二十一條ニ無期流刑ノ囚ハ五年、有期流刑ノ囚ハ三
年ヲ經過スレバ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシ

ムルヲ得ルノ明文アリ然レモ何レノ地方ヲ撰ムテ其境界ヲ劃スベキヤ之ヲ定メス故ニ本條ハ其限ルベキ地方ヲ監獄ノ近傍ニ於テ撰ムベキモノトス何トナレバ刑法第三十七條ニ從ヒ警察ノ監視ヲ受ケ又平生典獄ノ監督ヲ受ケルニ不便ナカラシメンガ爲メナリ而シテ其限内ニ於テ囚徒ニ貸與スル屋舎ヲ構造スルハ監獄則第六十一條第二項ノ例ニ從ヒ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スベシ然レモ囚徒若シ已ムコトヲ得ザル事故アル時ハ限地ノ境外ニ出ルモ妨ナシ但典獄ニ其旨ヲ申立其許可ヲ得ベキモノトス是レ本條ノ變則ナリ

○本條ハ免幽閉ヲ受ケタル者ノ居住スベキ地ヲ定ム流刑ノ囚、免幽閉ヲ受ケルハ獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀著シク且ツ規則ニ定メタル年限ヲ經過スルニ由ルト雖モ猶ホ未ダ純白

潔明ノ者ト謂フベカラス其免幽閉ノ爲メニ一時一身ノ拘束ヲ免カレ自由ニ進退ズルヲ得テ復タ罪ヲ犯シ社會ノ公益ヲ害セザルヲ保スベカラス且ツ流刑ノ囚ハ重罪ノ囚ナリ刑法第三十七條ノ例ニ從ヒ刑期滿限ノ後ニテモ猶ホ警察ノ監視ヲ受ケベシ況ヤ免幽閉ハ刑期中ニ受ケルモノニシテ其囚徒ハ未ダ刑期ヲ滿タザル者ナルヲ宜シク典獄ノ監督ヲ受ケシムベキナリ而シテ其監督ヲ爲スニ便方ヲ設ケザレバ其名ハ監督ヲ爲スト云フト雖モ其實ハ監督ノ目的ヲ達スル能ハザルナリ蓋シ北海道諸州ハ地廣クシテ人少ナク山林深澤殆ト人跡ヲ絶スル所アリ若シ免幽閉ヲ受ケタル囚徒ヲシテ北海道中其撰ム所ニ居住セシムル時ハ一囚毎ニ特別ノ監督者ヲ付セザレバ竟ニ監督ノ目的ヲ完ニスル能ハザルナリ故ニ監獄近傍ノ地ヲ劃シ此ニ居住

セシメテ他ニ移ルヲ許サス乃チ監督ヲ爲スニ便ナラシム是レ免幽閉ヲ受ケタル者ノ居住スベキ地ヲ限ル所以ナリ若シ他所ニ移住セント欲ル時ハ其旨ヲ典獄ニ請フベシ否ラザレバ自由隨意ニ居ヲ移シテ以テ監督ヲ免ルノ弊害ヲ生ス

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

流刑ノ囚免幽閉ヲ受クルハ獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀アルニ由ルナリ然レモ前註既ニ説ルガ如ク其一身ノ拘束ヲ免カレ自由ニ進退スルヲ得ルヲ以テ復タ再ヒ罪ヲ犯スナシト爲サス若シ免幽閉中再ヒ罪ヲ犯セバ直チニ監獄ニ入レ免幽閉ノ特典ヲ失ハシムベシ而シテ再犯ノ罪ヲ裁判シ其刑

定マリタル時ハ前犯ノ刑期限内ト雖モ島地ニ於テ之ヲ執行スベキモノトス然レモ刑期限内再犯ノ者ニ付テハ刑法第九十五條ノ例ニ從フベキガ如シ其正條ニ曰ク刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セザル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セザル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラヌ各之ヲ徴收スト故ニ人或ハ本條直チニ其刑ヲ執行ス可シトアレモ此正條ニ據ラサル可カラスト爲ス者アレバ然レモ本條ハ免幽閉ヲ受ケタル囚徒再ヒ罪ヲ犯シタル場合ヲ豫見シタルモノナレバ該條ニ據ラヌ再犯ノ罪裁判アリタル時直チニ其刑ヲ執行スヘキモノト定メ

○本條ハ免幽閉ヲ受ケタル者其刑期中再ヒ罪ヲ犯シタル場
 合ヲ云フ凡ソ罪ヲ犯ス者皆惡ムベシト雖モ再犯ヲ惡ムイ
 初犯ヨリ更ニ甚シカルベシ何トナレバ初犯ハ或ハ一時ノ
 怒ニ發シ若クハ一時ノ情ニ動カサレ思ハズ法ヲ枉ゲ律ヲ
 破ルニ至リシナラント推測ヲ下ダスヲ得ベシト雖モ一々
 ビ刑ヲ受ケ懲罰ヲ被リテ尙ホ前非ヲ悔ヒス再ヒ罪ヲ犯ス
 ニ至リテハ初犯ニ付テノ推測ヲ下ダスヲ得ベカラザルノ
 ミナラズ前刑ノ效果ハ全ク無ク屬シタルヲ以テ之ヲ罰ス
 ルハ初犯ヨリ重カラザルヲ得ザルナリ故ニ流刑ノ囚幽閉
 ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯ストキハ初犯ノ刑期限内ト
 雖モ直チニ其刑ヲ執行シ初犯ノ刑期滿限ヲ待タザルモノ
 トス蓋シ其囚徒ヲシテ再犯ノ果報ヲ迅速ニ知ラシムルナ
 ラン

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セ

シムルヲ得

刑法第二十二條ニ懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス
 云云トアリ又同第二十四條ニ禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁
 錮ハ定役ニ服ス云云トアリ故ニ懲役ハ輕重ヲ問ハス禁錮
 ハ重禁錮ニ限り定役ニ服スモノトス而シテ一ハ懲役場ニ
 一ハ禁錮場ニ留置ストアリト雖モ定役ニ服スルハ獄内ニ
 於テスルカ又獄外ニ於テスルカ未タ之ヲ定メス故ニ本條
 ハ典獄ニ委スルニ工業ノ摸樣ヲ量リ此等ノ囚徒ヲシテ共
 ニ獄内獄外ノ役ニ服セシムルヲ得ルノ權ヲ與ヘリ即チ是
 ノ便宜ニ從ヒノ數字ヲ明文ニ掲ゲタル所以ナリ刑法第二
 十四條ニ禁錮場ニ留置ストアレハ監獄則中別ニ禁錮場ヲ
 設ケス懲役場ニ於テ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁ス

ルモノトス故ニ人或ハ懲役ノ囚ト禁錮ノ囚ト相混住スル
 ノ疑ナキヲ保セス然レモ監獄則第三十六條ノ精神ヲ觀ル
 ニ管ニ此般ノ事ナキノミナラス重禁錮ノ囚ト輕禁錮ノ囚
 トヲモ混同セス況ヤ懲役ノ囚ト禁錮ノ囚トニ於ケルヲヤ
 故ニ一ノ懲役場内ニ二種ノ囚徒ヲ入ル、ト雖モ必ス墻壁
 ヲ以テ嚴ニ之ヲ區劃スルモノトス是レ本條題外ノ事ニ屬
 スニ似タリト雖モ重禁錮ノ囚ヲ外役ニ服セシムルノ明文
 アルニ因リ其獄内ノ事ヲ說クモ亦益ナシト爲サス讀者其
 レ之ヲ諒セヨ

○本條ハ懲役重禁錮ノ囚ヲ定役ニ服スル原則ヲ定ム法律ノ
 精神ヲ探ルニ懲役重禁錮ノ囚ハ懲役場内ニ於テ定役ニ服
 スルヲ以テ正則ト爲スカ如シ何トナレバ囚徒ヲシテ獄外
 ニ出シ社會公衆ト面接セシムル時ハ竟ニ之ト狂レ親シムノ

弊ヲ生ズルノ恐レアレバナリ是ヲ以テ白耳義國ノ如キ監
 獄ノ瓦制ヲ得タル國ニ於テハ管ニ囚徒ヲシテ外役ニ就カ
 シメザルノミナラス亦各囚ヲシテ交互相接スルコトヲ得ザ
 ラシメリ然レモ本邦ノ如キハ徒刑、懲役、重禁錮ノ囚ヲ浚河
 鑿坑ノ業ニ就カシムルノ制ヲ立ルヲ以テ自カラ外役ニ服
 セザルヲ得ス且ツ監獄則第九十五條ニ記載スル監房内掲
 示ノ第六款ニ監外ニ出タル時其途上ニ於テ同往ノ者ト交
 談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス又其末項ニ
 揭示ノ諸款ニ違フ者ハ其情狀ヲ量リ處分スベキモノナリ
 トアリ故ニ此揭示ニ違フ者ハ同第三百三條以下ノ懲罰ヲ受
 クベシ獄則ノ嚴ナル其レ既ニ是ノ如クナレハ囚徒ヲシテ
 監外ニ出サシムルモ亦何ノ恐カ之レアラシ蓋シ白耳義國
 ノ如キハ獄制ノ善、其宇内第一ノ名ヲ得、監内百般ノ事物一

トシテ具備セザルハナシ故ニ監獄ハ分房制ヲ用ヒテ囚徒ヲ監外ニ出サシメザルモ敢テ妨ナカルベシ木那ノ如キハ新ニ監獄則ヲ設ケラレ舊來ノ面目ヲ一新セラレタリト雖モ仍ホ或ハ未ダ完璧無缺ノモノト謂ベカラザルヲ恐ル故ニ囚徒ヲシテ外役ニ就カシムルノ妨ナキハ猶ホ白耳義國ニ於テ之ヲシテ外役ニ就カシメザルノ妨ナキガ如シ是レ國風民情ノ相同シカラザルニ由ル何ゾ白耳義國ノ良制ト稱スル者却テ我國ニ反對ノ結果ヲ生ズルナキヲ知ラシ手

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サン
ト請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

刑法第二十三條ニ禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セズトアリ又同第二十四條ニ輕禁錮ハ定役ニ服セズトアリ蓋シ第十一條ノ註釋ニ説ル流刑ト同ジク禁獄輕禁錮ノ二刑ハ

國事犯ニ科スル刑ナルヲ以テ之ニ服役ノ義務ヲ付セザルナリ故ニ此二刑ノ囚ハ常ニ獄内ニ在テ一事ノ爲スベキモノナシ若シ無聊チ慰メ寂寥ヲ破ルガ爲メカ又ハ拱手默座ハ人性ニ背クヲ解スルガ爲メカ若シハ監獄則第四十六條ノ例ニ從ヒ典獄ノ勸誘ニ薰陶セラレタルガ爲メカ自カラ工業ヲ作サント請フ者アル時ハ典獄之ヲ許スベキモノトス然レモ此等ノ囚ヲシテ監外ノ役ニ就カシムベカラズ必ス獄内ニ於テ工業ヲ與フベシ且ツ此等ノ囚ニ與ヘタル工業ハ決シテ科程ヲ定ムルニ非ス本人ノ隨意作業ヲ爲スニ任スベシ是レ本條ニ於テ定役ニ服スト云ハズシテ工業ヲ爲スト云ヘル所以ノ一ナリ

○本條ハ禁獄、輕禁錮ノ囚ニ工業ヲ爲スコトヲ許スヲ定ム第十一條ノ註釋ニ國事犯ノ刑ニ定役ヲ付セザルノ理由及ヒ國

事犯者ニ工業ヲ爲スヲ許スノ理由ヲ併セテ説明セリ本條所謂ル禁獄、輕禁錮モ亦國事犯及ヒ道義ヲ害スル至少ナル者ニ科スル所ノ刑ナルヲ以テ定役ヲ義務トセズ其理流刑ノ囚ニ工業ヲ爲スヲ許スト同一ナレバ復タ茲ニ説カス讀者第十一條ノ註釋ヲ參看セバ可ナリ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

刑法第二十五條ニ定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ在ラストアリ故ニ徒刑懲役重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者各本條ニ因リ定役ニ服スル内更ニ此等ノ刑ニ該ルベキ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル時ハ初犯ノ刑期後、再犯ノ刑ヲ執行スルカ又ハ初犯ノ刑期限

内、再犯ノ刑ヲ執行スルカ其如何ニ拘ハラス後犯ノ刑期百日以内ハ服役ヨリ生ズル工錢ヲ給與セザルモノトス其工錢給與ノ規則ハ監獄則第五十一條ノ例ニ從フ其條ニ曰シ定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レバ始テ各自ノ工錢ヲ科定シ之ヲ十分シ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ムト是ナリ故ニ一百日ヲ過レバ此例ニ從ヒ工錢ヲ與フ

○本條ハ服役限内再ヒ服役スベキ罪ヲ犯シタル者ノ工錢給與ニ關スル規則ヲ定ム夫レ工錢ハ囚徒ノ勞動ヨリ生ズル利益ナリ之ヲ使用スルニ二個ノ目的アリ一ハ則チ監署ニ收メテ以テ囚徒ノ衣食其他ノ費用ニ充シ一ハ則チ囚徒ニ與ヘテ以テ將來出獄後ノ生業ヲ計ル資本ニ充スル是ナリ既ニ此等ノ目的アレバ刑期百日内外ヲ問ハス苟モ作事ニ

就シノ時ヨリ工錢ノ幾分ヲ囚人ニ給與シテ可ナリ然リ而
 シテ刑法第二十五條及ヒ監獄則第五十一條ニ於テ現役一
 百日ヲ經ルニ非ザレバ工錢ヲ給與セズト定ムルハ何ツヤ
 曰ク理アリ茲ニ一人アリ放恣不良ニシテ家産ヲ破リ一身
 ヲ依スベキ所ナク世人之ヲ排斥スルヲ以テ錢ヲ得ルノ道
 絶ヘ自カラ衣食スル能ハザルニ至リ以爲ラク吾レ自カラ
 衣食スル能ハス彼ノ囚人ハ監獄ニ在テ其衣食ノ給與ヲ受
 ケ且ツ作業ノ工錢ヲ得ル豈ニ吾ニ優ルヲ萬々ナラズヤ吾
 若シ百日以内ノ重禁錮ニ處セラルベキ罪ヲ犯セバ衣食立
 ロニ成リ工錢モ亦得ベシ而シテ實決ノ刑百日以内ナル時
 ハ放免後公權ヲ失フノ恐ナカルベシ如カス小罪ヲ犯シ以
 テ一時ノ窮追ヲ免レシニハト遂ニ必ヲ決シテ罪ヲ犯ス
 アルナキヲ保セス是レ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セザル

所以ナリ本條所謂ル服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服
 スル者ニ就テハ其既ニ服役限内ニ在ルヲ以テ右ニ謂ヘル
 ガ如キ犯罪ニ誘導スルノ弊害アルナシト雖モ刑法ノ正條
 ニ於テ此制限ヲ設ケ監獄則ニモ亦之ヲ設クルヲ以テ此附
 則ニ於テ再犯定役ニ服スル者ニ付テ同一ノ規則ヲ定メラ
 レタリ蓋シ刑法及ヒ監獄則ニ於テ俱ニ再犯定役ニ服スル
 者ノ工錢給與ノ規則ヲ定メザルニ由ル

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及

ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

定役ニ服スル囚人ニ工錢ヲ給與スルハ刑法既ニ之ヲ定メ
 タリ然レトモ其幾分ヲ監署ニ收メ幾分ヲ囚人ニ給與スル金
 額及ヒ之ヲ交付シ領置スルノ方法ニ至テハ之ヲ監獄則ニ
 付シテ刑法ニ定メズ故ニ監獄則第五十一條ニ於テ工錢ヲ

十分ノ重罪囚ニハ其一分輕罪囚ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ
 監署ニ收ルノ規則ヲ定メタリ然レモ是レ定役ニ服スル囚
 徒ニ付テ定ムル所ニシテ第十一條及ヒ第十七條ニ謂フ所
 ノ囚人ニ付テハ工錢ヲ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七
 分ヲ囚徒ニ與フモノトス定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ
 科程ヲ畢リ仍ホ作業スル者ノ科程外ニ得タル工錢モ亦此
 例ニ因ル而シテ此工錢ハ囚徒ニ與フベキモノト雖モ一切
 監署ニ領置シテ在監中ハ之ヲ與ヘス但毎月ノ首ニ於テ其
 前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムモノトス然レモ囚徒若
 シ工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フベキ工錢ヲ得若クハ其幾倍
 ヲ得ルニ於テハ其請ニ由リ領置シタル工錢ノ内一日金三
 錢ヲ使用スルヲ得ベシ定役ニ服セザル囚徒ニシテ此場
 合ニ至ル者ハ一日金五錢ヲ使用スルヲ得是レ監獄則第

六十九條ニ於テ規定スルモノナリ

○本條ハ囚人ニ給與スル工錢ノ額及ヒ其交付領收ニ關スル
 規則ヲ定ム夫レ刑法ハ一般ニ刑ノ原則ト罰スベキ所爲ト
 ヲ定メタルモノナリ故ニ其記載スル所概テ刑罰ノ大綱ニ
 シテ細目ノ如キハ之ヲ擧ケズ是レ此法ヲ稱シテ法律ト謂
 ヒ細目ヲ掲ゲタル者ヲ規則ト謂フ所以ナリ本條謂フ所ノ
 工錢ニ關スル規則ノ如キハ元ト監署内ノ事ニシテ公道正
 理ニ基ヒテ之ヲ定ムルヨリ寧ロ財政ノ便利ト經驗ノ適宜
 トニ由テ之ヲ定ムルヲ可トス蓋シ刑法ノ區域外ナル細目
 ニ屬スベキモノナレバナリ故ニ此等ノ事ハ總テ刑法附則
 ノ管スル所ト爲ス而シテ監獄則中既ニ工錢ノ規則ヲ設ケ
 ラレタリ故ニ再ビ之ヲ附則ニ出ダサス

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於

テ犯人身死スル時ハ之ヲ徴收セス附加ノ罰金ニ於ケルモ亦同シ

罰金科料ハ俱ニ財産上ニ就テ罰スル刑ナリ故ニ其受刑者ヲシテ若干ノ金銭ヲ出サシム而シテ罰金ハ最寡數ヲ二圓トシテ最多數ヲ定メズ科料ハ最寡數ヲ五錢トシテ最多數ヲ一圓九十五錢トス而シテ此宣告ヲ受ケタル者ハ直チニ之ヲ納完シ又ハ暫時ノ猶豫ヲ得テ納完スルモ可ナリ即チ其猶豫期限ハ一箇月トス是レ刑法第二十七條ニ於テ定ムル所ナリ故ニ罰金科料ノ宣告ヲ受ケタル者其宣告後一箇月ニ於テ死去スル時ハ或ハ未ダ之ヲ納完セザルコトアラノ此場合ニ於テハ其死前宣告シタル罰金科料ヲ徴收セザルモノトス此規則タル當ニ主刑ノ罰金ニ用フルノミナラズ附加ノ罰金ニ就テモ亦同シ

○本條ハ犯人死後ニ於テ其死前宣告シタル罰金科料ヲ徴收セザル原則ヲ定ム法律ノ原則ニ曰ク罪ハ唯ダ犯人ニ歸スルヲ以テ刑モ亦犯人ニ止マルト是ヲ以テ犯人死去スル時ハ罪モ亦俱ニ消滅ス蓋シ此理タル未決已決ノ者ニ用フ即チ未決者ニ就テハ被告人死去スルヲ以テ其無罪ヲ證明スルニ足ルベキ辯護ノ道ナキニ由ルト云ヒ已決者ニ就テハ犯人死去スルヲ以テ其罪ヲ歸スベキ者ナキニ由ルト云フ本條所謂ル罰金科料ノ宣告ヲ爲スハ犯人ノ罪アルニ由ルナリ而シテ刑法ハ犯人ニ許スニ一箇月内ニ之ヲ納完スベキヲ以テス故ニ犯人其宣告ヲ至當トスル時ハ一箇月内隨意ニ罰金科料ヲ納ムルノ權アリ然レ其未ダ之ヲ納完セザル前ニ死去スル時ハ裁判所ハ其會テ爲シタル宣告ニ從ヒ罰金科料ヲ徴收スルヲ得ベキ手將テ徴收スルヲ得ベカラ

ザル手刑法ニ於テ之ヲ定メス若シ犯人其宣告ヲ至當ト爲シテ上訴セザレバ裁判自カラ確定スベシ裁判ノ確定スル時ハ決シテ之ヲ動カスベカラズ是レ法律ノ以テ原則ト爲ス所ナリ然ラバ罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セザル前ニ犯人死去スル時ハ其相續人ニ於テ之ヲ納完スルノ義務アルニ似タリ然レバ前既ニ開陳スル所ノ原則ニ依レバ罪ハ犯人ニ歸シ刑モ亦犯人ニ止マラザルヲ得ス又犯人死去スル時ハ其財産ハ民法ニ從ヒ直チニ相續人ノ所有ニ歸セザルベカラズ然ルニ若シ嚮キニ宣告シタル罰金科料ノ裁判既ニ確定シタルノ故ヲ以テ裁判所ハ犯人ノ死後ニ於テモ仍ホ其罰金科料ヲ徴收スルヲ得ベシト爲ス時ハ既ニ相續人ノ所有ト爲リタル財産ヨリ若干ノ金銭ヲ徴收セザルヲ得ス是レ相續人ヲシテ先人ノ刑ヲ受ケシムルモノト謂

ハザルヲ得ンヤ果シテ然ラバ則チ法律ノ一大原則タル彼ノ罪ハ犯人ニ歸シ刑モ亦犯人ニ止マルノ意何クニ在ル乎法律豈ニ此ノ如キノ理アラシヤ故ニ罰金科料ノ宣告ハ確定シタル後ト雖モ未ダ納完セザル前ニ於テ犯人死去スル時ハ其死ト共ニ消滅シタルモノトシテ之ヲ徴收セザルヲ原則ト定メラレタリ

第二章 監視

刑法ニ於テ刑ヲ二種ニ分カテ主刑及ヒ附加刑ト爲ス其第十條ニ於テ附加刑ヲ定ムルコト凡ソ六種ニシテ監視ハ即チ其一ナリ夫レ監視ハ犯人ヲシテ再ビ罪辟ニ陥リ社會ノ公害ヲ爲サベラシメソガ爲メ之ヲ警察官吏ノ目下ニ置キ其監督ヲ受ケシムルモノナリ故ニ刑法第三十四條第三十

七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條
ニ於テ監視ノ事ヲ記載ス然レドモ單ニ主刑ニ附
加スルノ一点及ヒ監視期限ノ算法ヲ掲グルニ過
ギス其監視ノ性質及ヒ細則等ニ至テハ之ヲ定
メス是レ附則中本章ノ設ケナカルベカラザル所
以ナリ

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束ス
ル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムルモノ
トス

監視ハ刑法第十條第四款ニ附加刑ノ一トシテ掲グル所ノ
モノナリ而シテ附加刑ハ主刑期限中ニ執行スルモノト其
期限後ニ執行スルモノトアリ監視ハ主刑期限後ニ執行ス
ルモノニ屬ス故ニ主刑ノ終リタル後ニ執行ス而シテ其注

刑ニ附加スル所以ノモノハ重罪輕罪ヲ犯シ其刑ヲ終リタ
ル後ト雖モ一旦罪ヲ犯シタルヲ以テ再ヒ其轍ヲ踏ムノ恐
ナキニ非ラザレバ犯人ノ將來ヲ檢束スル爲メ若干年間警
察官吏ヲシテ之ヲ監督セシムルモノ是ナリ故ニ重罪ヲ犯
シタル者ニ就テハ再犯セントスルノ恐レ重大ナルヲ以テ
別ニ監視ノ宣告ヲ用ヒズシテ之ニ付シ輕罪ヲ犯シタル者
ニ就テハ其恐レ稍ヤ輕微ナルヲ以テ必ス監視ノ宣告ヲ用
フ是レ刑法第三十七條第三十八條ニ於テ定ムル所ナリ而
シテ此監視スル目的ハ犯人ノ行狀ニ注意スルニ在リ其行
狀トハ何ゾ即チ日常ノ間ニ於テ進退舉動其他一切ノ行爲
ヲ云フ假令ハ茲ニ盜犯アリ其犯罪ノ日時ニ於テ監視ニ付
セラレタル者ハ如何ナル舉動アリシヤヲ取調ルガ如シ
○本條ハ監視ノ大意ヲ定ム刑法ニ於テ監視ノ明文アリト雖

モ唯ダ其附加刑ノ一タル事ヲ説クニ外ナラス凡ソ罪ヲ犯ス源因三箇アリ第一ヲ稟性ノ悪キ者トシ第二ヲ窮困ノ然ラシムル者トシ第三ヲ他人ノ例ニ習フ者トス此三者ノ内最モ多キモノハ第二ノ源因ヨリ罪ヲ犯スニ至ル者はナリ何トナレバ商業繁盛ノ都會ニ於テハ職工人特ニ多ク不幸ニシテ職業ニ就ク能ハス空シク日月ヲ消シ且ツ平生節儉シテ暇日ノ備儲ヲ慮バカラス又其術ニ乏シク遂ニ盜ヲ爲シ法ヲ犯スニ至レバナリ既ニ罪ヲ犯シ監獄ニ在ルコト久シク刑期滿チテ偶々社會ニ出ヅルモ良民ハ其刑餘ノ者ナルヲ以テ自カラ之ヲ遠ザクルノ勢アレバ然ラザルモ職業ニ就ク能ハザリシ者復々手ヲ空クシテ坐食スルニ因リ再ビ罪辟ニ陥ルノ恐ナキニ非ス其初犯ノ刑罰ニ懼レ再ビ罪ヲ犯スベカラザルヲ悟ルベキハ至當ノ果效ナレトモ無智ノ者

ニ至テハ多クハ窮シテ亂スノ弊害アリ故ニ法律ハ出獄者ノ行狀ヲ監督セシメテ以テ再犯ノ憂ヲ絶ツ是レ監視ノ設ケナカルベカラザル所以ナリ

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ

主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人ヲ其住所ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

刑法第三十七條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ストアリ又同第三十八條ニ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルコトヲ得ズト

アリ又同第三十九條ニ死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ストアリ是レ管ナ監視ニ付スベキ者ナリ此場合ニ於テ監視ニ付シタル者ヲシテ預メ其刑期滿限後ニ住居セント欲スル所ヲ定メテ典獄ニ申立テシメ典獄ハ其申立テタル所ニ住居セシムルモ妨ナシト思料スレバ主刑滿限ノ時犯人ヲ其住所ノ地ノ警察署ニ護送シ監視ヲ執行セシム其護送スル時ハ次條ニ謂フ所ノ書類及ヒ監署ニ領置セシ金錢其他ノ物品ヲ付シ監獄則第二十七條ノ例ニ習ヒ警察遞傳ヲ以テ押送ス其住所ノ地ノ警察所ニ送ルハ前條既ニ説キタル警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムルガ爲メナリ若シ犯人刑ヲ受ケタル者ニ非ス前既ニ言ヘルガ如ク主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ刑法第二百十六條ニ定ムル内亂ノ豫備又ハ陰

謀ヲ爲シ未ダ其事ヲ行ハザル前ニ於テ官ニ自首シタル者若クハ同第九十二條ノ貨幣ヲ偽造シ變造シテ未ダ行使セザル前ニ於テ官ニ自首シタル者等ノ如ク主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ハ皆監獄ニ入ラザルヲ以テ裁判宣告ノ後直チニ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送スルモノトス其手續規則ノ如キハ凡テ通常ノ例ニ從フ

○本條ハ監視ニ付スベキ者ノ住所及ヒ其押送ノ手續ヲ定ム前條既ニ説ルガ如ク監視ハ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監督セシムルモノトス然レモ若シ其監督ヲ爲スニ方法ヲ得ザレバ竟ニ其目的ヲ達スル能ハザルナリ何トナレバ犯人注刑ノ終リタル後一定ノ住所ナク隨意東奔西走スル時ハ假令ヒ警察官吏ニ於テ非常ノ注意ヲ爲シ監督セント欲スルモ決シテ得ベカラズ亦其踪跡ダモ失フニ至ルベケレ

バナリ是レ本條監視ニ付スベキ者ヲシテ豫メ其住所ヲ定メシムル所以ナリ此住所ヲ定ムルハ監視ニ付セラレタル者ノ意ニ任スト雖モ其隨意之ヲ決セシメス都會ノ地ノ如キハ人民稠密ニシテ警察ノ監視自カラ不充ナルベキヲ以テ監視ニ付セラレタル者ノ住居スルヲ禁セラルベシ故ニ多クハ犯人ノ郷里又ハ其他ノ地方ニシテ人民ノ稀少ナル所ニ於テ住居ヲ撰バシムルモノナラン

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起算満期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ附ス可シ

監視ニ付スベキ者刑期満限スル時ハ前條ノ例ニ從ヒ警察所ニ護送スベキナリ此時ニ於テ典獄ハ一通ノ文書ヲ作り監視ノ起算満期ヲ詳ニ記載スベシ其起算ノ法ハ刑法第四

十條ノ規則ニ從フ其條ニ曰ク監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算スト是ナリ今重罪ノ刑ニ處セラレタル者ノ監視ニ就テ譬ソニ六年以上八年以下ノ輕懲役ニ處セラレタル者刑期終リタル日ヨリ起算シ六年ノ三分ノ一即チ七百三十日目ヲ滿期ノ日ト爲スガ如シ故ニ文書ニハ某年某月某日ヨリ起算シ某年某月某日ヲ以テ滿期ト爲スベキヲ記ス此文書ト共ニ其犯人ノ受ケタル刑名宣告書ノ謄本ヲ監視スル警察所ニ送付スルモノトス

○本條ハ監視ノ時間並ニ監視ニ付スベキ理由ヲ明示スルヲ定ム夫レ法ハ確實ナルヲ貴ム若シ確實ナラザレバ法貴カラス怠慢偏頗之レヨリ生スベキナリ故ニ法律ハ訴訟關係

人及ヒ犯人ニ對シテ期限ヲ定ムル極メテ嚴ニシテ之ヲ誤
 テハ其履行シタル手續規則ハ皆ナ無効ニ屬スルモノトス
 法ノ嚴ニシテ不利ヲ與ヘル亦酷ト謂フモ可ナリ既ニ不利
 ヲ與ヘル是ノ如クナレバ利ヲ與ヘルモ亦同シク嚴ナラザ
 ルベカラズ若シ犯人ハ罪ヲ犯シタル者ナリトシテ法律ニ
 定メタル刑期ヲ一日乃至二日ノ永キニ至ラシメテ之ヲ願
 ミザレバ其弊竟ニ故意ヲ以テ刑期外ニ監禁スルコトアルモ
 亦遁辭ヲ爲シテ以テ其責ヲ免カルニ至リ犯人ノ不幸ハ幾
 何ゾヤ恰モ無辜ヲ罪スルト同一ノ果效ヲ生スベキナリ故
 ニ監視ノ期限モ法律ニ定ムル日數ヨリ伸縮スベカラズ是
 ノ監視ノ起算滿期ヲ記載シテ明示スル所以ナリ又犯人ノ
 押送ヲ受ケタル警察所ニ於テハ唯ダ典獄若クハ檢察官ヨ
 リ其犯人ヲ監視スベキ旨ヲ通知アルノミニテハ之ヲ確證

ト爲スニ足ラス或ハ典獄、檢察官ノ故意ヲ以テ監視ニ付シ
 タルヤ假令ヒ其故意ヲ以テセザルモ亦過誤ヨリ出ルコトナ
 シト爲サス故ニ犯人ヲ監視ニ付スベキコトヲ確認スルノ證
 據ナカルベカラス而シテ其證據ト爲スベキモノハ他ナシ
 裁判言渡書ヲ最モ公正ノモノトス是レ刑名宣告書ノ謄本
 ヲ犯人ト共ニ送付スル所以ナリ

**第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ
 典獄若クハ檢察官ヨリ先ツ最近ノ警察所へ護送シ其警
 察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ**

第二十二條ニ從ヒ監視ニ付セラレタル者ハ其期限中住居
 スベキ所ヲ一定シ典獄ハ其住所ニ監視ニ付スベキ者ヲ押
 送スベシ然レモ其住居ノ地監署ノ近傍ニ在ラズシテ數里
 ヲ距ル遠地ニ在ル時ハ一日ニ達スル能ハザルベシ此場合

ニ於テ通常主刑ヲ終リタル者ニ係レバ典獄若シ主刑ノ期満免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止メ監視ニ付スル者ニ係ル時ハ檢察官ヨリ先ツ最寄ノ警察所ニ押送スベキモノトス而シテ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致スベキナリ此護送ハ本年二月一日天政官第十號達囚人護送手續第一條ノ例ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ爲スモノナルヘシ

○本條ハ監視ニ付セラレタル者ヲ其住居セントスル地ニ護送スル場合ヲ云フ監視ヲ執行スルハ土地ニ經界ヲ立テ此ニ犯人ヲ住居セシメザレバ其目的ヲ遂ゲント欲スルモ得ベカラザルナリ故ニ第二十二條ニ於テ豫メ犯人ノ住居セントスル地ヲ定ムベキヲ記載セリ而シテ之ヲ定ムルハ監督ノ許可ヲ要スト雖モ犯人ヲシテ先ツ其意中ニ在ル所ノモノヲ申立テシムルモノトス是ヲ以テ其住居セント請

フ所ノ土地或ハ監督ノ近傍ニ在ルヲアリ又ハ監督ヨリ數里ヲ距ル所ニ在ルヲアラシ若シ監督ノ近傍ニ在ル時ハ犯人ヲ護送スルニ於テ差支ヲ生ズルヲナシト雖モ若シ監督ヨリ數里ノ外ニ在ル時ハ一日ニ犯人ヲ其住居ノ地ニ護送スルヲ能ハザルナリ此場合ニ於テ犯人ヲ旅舎ニ宿泊セシメノカ旅舎ニ宿泊セシムレバ押丁モ亦俱ニ宿泊シテ之ヲ監視セザルベカラス此ノ如クナル時ハ犯人ノ逃亡スル危険ト費用ノ増殖スル恐トアリ故ニ護送ノ途遠クシテ一日程ヲ過グル者ハ警察遞傳ノ方ヲ以テ一ノ警察署ヨリ一ノ警察署ニ送致シ順次遞傳シテ遂ニ犯人居住ノ地ニ到ラシムルモノト定ム

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與シ犯

人到着ノ日直ナニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ
犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ遞送ス可シ

前條ニ於テ定ムルカ如ク監視ニ付セラレタル者ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過グル時ハ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ニ送致スベキモノトス此場合ニ於テ其警察所ヨリ犯人住居ノ地ノ警察所ニ至ル里數ヲ豫算シ旅行ノ日數ヲ限リテ旅券ヲ與フモノトス假令ハ東京小菅集治監ニ於テ刑期ヲ終リタル者監視ニ付セラルハニ付キ小田原ニ住居セントスル時ハ先ツ東京ヨリ小田原ニ到ルノ里數ヲ計ルベシ此里數ヲ假リニ廿里ト定ムンバ一日

ニテ達スル能ハザルヲ以テ陸路幾里ヲ以テ一日ノ里程トナシ二十里ヲ若干日ニ割算ノ日數ヲ限定シ其日限内ニ旅行ヲ爲スベキモノトシ其旨ヲ旅券ニ記載シテ之ヲ付與スルカ如シ此一日ノ里程ハ幾何里ヲ以テ當ルヤ未メ之ヲ定メズト雖モ治罪法第十九條ノ例ニ從ヘバ三里以上八里以下ヲ以テ一日ノ里程ト爲スヲ以テ本條ノ場合モ亦此例ニ從フテ可ナラン乎此ノ如ク里數ニ由テ日數ヲ限リ之ヲ旅券ニ記載シテ犯人ヲ住居ノ地ニ送致スルヲ以テ其到着ノ日直ナニ旅券ヲ其地ノ警察所ニ差出シ其記載シタル所ノ日限ヲ誤タズ旅行シタルヲ明知セシムルモノトス是レ本條ノ正則ナリ然レモ或ル場合ニ於テハ正則ニ從フ能ハザルヲアリ即チ途中ニ於テ疾病ニ罹ルカ又ハ水火風震ノ災ニ遇フカ其他正當ノ事由ニ因テ臨時淹滞シタル時ハ其

故懲ニ非ス已ムコトヲ得ザルニ出ルコトヲ證明スベキヲ以テ
 第三十一條ノ例ニ從フベキモノトス本條ノ場合ニ於テ犯
 人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類即チ監視
 ノ起算滿期ヲ記シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ犯人
 住居ノ地ノ警察所ニ遞送スベキナリ此遞送ハ現今警察所
 ヲリ書類ヲ他ノ警察所ニ送付スル手續ト同一ノ規則ニ從
 フコトトス

○本條ハ監視ニ付セラレタル者ノ旅行ニ關スル規則ヲ定ム
 夫レ監視ハ主刑ノ終リタル後ニ行フ所ノモノナリト雖モ
 是レ附加刑ノ一ナルヲ以テ犯人ハ仍ホ刑期內ニ在ルモノ
 ナリ若シ犯人ヲシテ刑期內放テ隨意旅行セシムル時ハ途
 中或ハ怠慢ノ意ヲ生ジ其弊竟ニ逃亡ヲ爲スニ至ラシ假令
 ヒ逃亡ヲ爲サハルモ其知人又ハ他處ニ淹滞スルノ恐ナシ

トセス尚ニ此ノ如クナレバ監視ニ付スルノ效果シテ何ク
 ニ在ル乎是ヲ以テ里程ヲ計リ日數ヲ定メテ旅行セシメ旅
 中恣ニ淹滞ヲ爲スヲ禁ス是レ犯人旅行ニ關スル正則ナリ
 然レハ旅行中第三十一條ニ謂フ所ノ事ナシトセス是レ意
 外ノ事ニシテ犯人ノ豫知又ハ豫防スベカラザルモノナリ
 故ニ此場合ニ於テハ其事面ヲ申立ルモノトス是ヲ犯人旅
 行ニ關スル變則トス

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期限

間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下附ス可シ

前條ニ從ヒ監視ニ付セラレタル者其住居ノ地ニ到着シタ
 ル時ハ曾テ受取リタル所ノ旅券ヲ差出シ淹滞ナク到着シ
 タル旨ヲ其地ノ警察所ニ申出ツベシ警察所ニ於テハ先ツ
 其旅券ニ記載シタル所ト監視ニ付セラレタル者ノ旅行日

數トヲ照シ而シテ後監視ノ期限間遵守スベキ條件ヲ本人
 ニ讀聞スベシ其遵守スベキ條件トハ次條ニ掲グル所ノ四
 箇ノ規則ニシテ監視中聽テ之ヲ守レバ第三十六條ノ恩典
 ヲ受ルニ至ルモノナリ此條件ヲ讀聞カセタル後監視ノ票
 ヲ本人ニ下附ス監視ノ票ニハ本人ノ本管、族籍、氏名、年齢、及
 ヒ身材、容貌並ニ罪質、犯數、刑名、刑期、附加刑等ヲ記載シ且ツ
 某年、某月、某日、某監獄署或ハ某裁判所ヨリノ送致ニ係ル者
 ニシテ若干年間監視ニ付セラルベキ旨及ヒ監視ノ期限間
 遵守スベキ規則ヲ記載シタルモノナリ
 ○本條ハ監視ヲ執行スル手續ヲ定ム已決者監獄ニ在ル時ハ
 監署之ガ管轄ヲ爲シ其規則ヲ遵守セシムベキナリ已決者
 刑期ヲ終リ監視ニ付セラレタル時ハ其住居ノ地ノ警察所
 之ガ管理ヲ爲シ監視ノ規則ヲ遵守セシムベキナリ故ニ監

署若クハ裁判所ヨリ監視ニ付スベキ者ヲ送致シタル時ハ
 其期限間遵守スベキ規則ヲ知ラシムルベキモノトス而シ
 テ此規則ハ監視ノ票ニ記載スルヲ以テ別ニ之ヲ讀聞カセ
 ザルモ可ナルガ如シト雖モ明文之ヲ讀聞カスベキモノト
 爲スハ蓋シ故アルナリ何トナレバ犯人文字ヲ讀ラザル者
 ナシト雖モ之ヲ讀ム者ト善ク之ヲ讀ム者トノ別アルヲ以
 テ一様ニ規則ヲ知ラシメンガ爲メナリ又唯々規則ヲ記載
 シタル監視ノ票ヲ付與スルヨリ警察所ニ於テ犯人ヲ應前
 ニ呼出シ其規則ヲ高聲ニ讀聞カセバ必肝ニ銘スルヲ更ニ
 深密ナルベケレバナリ然レモ其規則ヲ讀聞カスノミヲ以
 テ足レリトセス之ヲ讀聞カセ且ツ其規則ヲ旦夕ニ記憶セ
 シメンガ爲メ監視ノ票ヲ下附スルモノト定ム是レ之ヲ本
 條ノ意ト爲ス

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
- 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ
- 四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス已ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

監視ニ付セラレタル犯人ハ其期限中四箇ノ規則ヲ遵守スベキモノトス其規則左ノ如シ

第一監視ニ付セラレタル者ハ其期限中警察所ノ監督ヲ受クベシ即チ監視ノ名ノ因テ起ル所以是ナリ故ニ期限中ハ毎月二度自カラ警察所ニ至リ其謹慎ニシテ本條定ムル所ノ條件ヲ遵守スルヲ申立テ前條謂フ所ノ監視ノ票ヲ出シ警官ノ認印ヲ受クベキモノトス警察官吏ハ平生監視スル所ト本人ノ申立ル所トヲ相照ラシテ監視ノ票ニ認印ス蓋シ此認印スルハ本人ノ謹テ規則ヲ守ルヲ證スルモノニシテ其效ハ竟ニ刑法第四十一條ノ恩典ヲ受クルノ利益ヲ生ズルモノナリ若シ本人疾病ニ罹リ又ハ已ムヲ得ザル事故アリテ自カラ警察所ニ至ルヲ能ハザル時ハ其不參ノ事由ヲ届出ツ可キナリ

第二監視ニ付セラレタル者ハ本ト謹慎ナルベシ故ニ酒宴遊興ノ席ニ會スルヲ禁ス酒宴トハ公開私開ヲ問ハス苟モ二人以上酒ヲ喫スルモノヲ云ヒ遊興トハ演戲落語講談歌舞音曲ノ類ヲ云フ又ハ群集ノ場所ニ至ルヲ許サス群集ノ場所トハ其意極メテ廣シ彼ノ遊興ノ部ニ屬スル劇場寄席相撲等ノ類ハ固ヨリ苟モ公衆ノ群集スル所ハ立寄ルベカラザルモノナリ然レドモ俗身ノ道ヲ説キ遷善ノ事ヲ教ル説教會ノ如キハ公衆群集ノ場所ト雖モ之ヲ例外ニ置テ可ナルベキナリ

第三第二十二條ノ規則ニ從ヒ監視ニ付セラレタル者ハ其住居ヲ定メ警察ノ監視ヲ受クベキナリ否ラザレバ監視ヲ爲サントスルモ行フ能ハザルベシ故ニ事故アリテ其住居ヲ他ニ移サントスル時ハ擅ニ轉移スルヲ許サス必

ス警察所ニ請フテ其許可ヲ受クベキモノトス

第四前項既ニ述ルガ如ク監視ニ付セラレタル者ハ一定ノ住所ヲ容易ニ移轉スベカラザルモノトス故ニ擅ニ他ノ地方ニ旅行スルモ亦許サザルナリ然レドモ已ムコトヲ得ザル事故アル時ハ例外トス其已ムコトヲ得ザル事故トハ譬ハ商用又ハ父母ノ疾病ニ赴クノ類ヲ云フ此場合ニ於テハ其事由ヲ警察所ニ申出テ警察所ニ於テハ其事由ノ當否ヲ檢シ而シテ後其許可ヲ爲スベキモノトス

○本條ハ監視ノ期限間遵守スベキ規則ヲ定メリ夫レ監視ハ犯人ヲ拘束シテ其行狀ヲ監督スルモノナリ而シテ其監督ハ常ニ警察官吏ノ注視シテ本人ノ進退舉動ノ如何ヲ察視スルニ任スモノト雖モ犯人ノ遵守スベキ規則モ亦設ケザルベカラス故ニ本條ハ四箇ノ規則ヲ定メリ其第一ハ犯人

ヲシテ謹慎ナルコトヲ自カラ表セシメンガ爲メ監視ノ票ニ認印ヲ受クベキモノトシ其第二ハ酒宴遊興ノ席ニ會スレバ自カラ醉倒狼籍シテ或ハ罪ヲ犯スニ至ルノ楷梯ヲシテ恐アリ又群集ノ場所ニ參會スルモ人ト爭論等ヲ爲スニ至ルノ恐ゾアリ故ニ此等ノ場所ニ臨ムコトヲ禁シ其第三ハ警察所ハ其管轄外ニ職權ヲ行フ能ハザルヲ以テ犯人若シ管轄地外ニ在レバ隨テ監視ヲ執行スル能ハス故ニ犯人ヲシテ擅ニ其住居ヲ移轉セシメザルモノトシ其第四ハ第三ト同一ノ理由アルヲ以テ亦擅ニ旅行スルコトヲ禁セリ此四箇ノ條件ハ監視ヲ執行スルニ必要ト爲ス所ノモノナルヲ以テ犯人ヲシテ必ス遵守セシムベキモノト爲セリ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

第二十一條ノ例ニ據レバ監視ハ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視シテ將來ヲ拘束スルモノナリ既ニ將來ヲ拘束スルモノトセバ犯人ノ行狀ニ於テ嫌疑スベキ事アレバ之ヲ訊問シ其嫌疑ノ件ヲ充分ニ取調ラベシ是レ監視ヲ執行スル警察所ノ義務ナリ故ニ監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ犯人ノ家宅ニ臨テ其摸樣ヲ檢審スルコトアルベキモノトス其時宜トハ意義廣濶ニシテ豫メ如何ナル場合ナルコトヲ指示シ難シト雖モ假令ハ犯人資力ナクシテ淫酒ノ疑アレバ其家財ヲ賣却シテ其價ニ充ツルヤ否ヲ取調ル爲メ其家宅ニ臨テ檢審スルガ如キノ類ヲ云フ

○本條ハ警察官吏ニ監視ニ付セラレタル者ノ家宅ニ臨檢スルノ權ヲ付與セリ刑法治罪法ノ精神ニ據ルニ人ノ家宅ハ即チ其城郭ナリ何人ト雖モ故ナクシテ容易ニ之ヲ侵スベ

カヲサルモノトス故ニ刑法第七十一條第七十二條ニ於テ其刑ヲ設ケリ又治罪法第三十三條第六十二條ニ於テモ家宅ヲ搜索スルニ必ス立會人ヲ要シ且ツ日出前日没後ハ之ヲ爲スコトヲ得ザルモノトス是レ皆容易ニ人ノ家宅内ニ入ルベカラザルノ精神ヨリ生ズル所ノ規則ナリ然レハ監視ノ期限間犯人ヲ管轄スル警察官吏ト雖モ容易ニ其家宅ニ臨檢スベカラザルヤ必セリ然レモ監視ヲ執行スル職務ニ在テハ時宜ニ因リ臨檢セザレバ或ハ職務ニ背シテナシトセス而シテ刑法ハ之ヲ定メス監獄則ハ之ニ關スルモノニ非ス故ニ刑法附則ニ於テ明ニ警察官吏ノ犯人ノ家宅ニ臨檢スルコトヲ定メリ是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルコトヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ

記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第二十七條第三款ニ監視ニ付セラレタル者ノ轉住セントスル時ハ警察所ニ申請シテ許可ヲ受クベキコトヲ定メリ蓋シ警察所ニ於テハ本人轉住ノ事由ヲ取調べ已ムコトヲ得ザル時ニ非ザレバ其請求ヲ許サハナリ若シ轉住ノ事由ヲ正當ノモノナリトシテ許可シタル時ハ其轉住ハ如斯ノ事故アルニ因ル旨ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知スルモノトス此場合ニ従前監視ヲ執行シタル警察所ノ犯人ニ關スル管轄ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ移スヲ以テ犯人一身ニ關スル書類即チ監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ原本ヲ遞送セザルベカラス是レ本條第二十三條云々ノ明文アル所以ナリ

○本條ハ監視ノ管轄ヲ移ス場合ヲ定ム監視ノ期限間犯人ノ

住所ハ其請求スル所ヲ考定シテ之ヲ許スモノトス故ニ法律ハ監視ニ付セラレタル者ニ許スニ其住居セントスル所ヲ自撰スルノ權利ヲ以テシテ而シテ其許否スルノ權ハ之ヲ他ニ任セリ是ヲ以テ犯人一旦監視間ノ住所ヲ定ムルモ又他ニ移轉スルコトヲ其屬スル所ノ警察所ニ請求シ警察所ハ其請求ヲ許否スルモノトス若シ之ヲ許可シタル時ハ犯人ヲ他ノ管轄ニ屬セシムルヲ以テ其轉住ノ事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ併テ犯人ニ關スル一切ノ書類ヲ遞送スルモノトセリ轉住ヲ許否スルノ權ハ警察所ニ於テ有スルモノカ又ハ警察所ヨリ之ヲ内務卿若クハ司法卿ニ具申シテ其許可ヲ得ベキモノカ別ニ規則アルナシ必ス他日ヲ待テ定ムベキナリ

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許可シタル時ハ其里

程ヲ計リ先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ

第二十七條第四款ニ監視ニ付セラレタル者警察所ノ許可ヲ得テ他ノ地方ニ旅行スルコトヲ許セリ故ニ此場合ニ於テハ警察所ハ犯人住居ノ地ヨリ其將ニ行ントスル地マデノ里程ヲ計リ若干里ヲ以テ一日ノ里程ト定メテ其猶豫ト爲シ到着ノ後先方ノ地ニ滯留スル時日ヲ算シ往復日數合計幾日乃至幾十日ヲ限定シテ旅券ニ其旨ヲ記載シ之ヲ付與スルモノトス

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸リ來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ
犯人前項ニ所謂ル旅券ヲ得テ先方ノ地ニ到着シタル時ハ

自カク其地ノ警察所ニ出テ、旅券ヲ示シ以テ其隨意旅行シタルモノニ非ザルヲ証明シ警察官吏ノ認印ヲ受クベシ警察官吏ハ其旅券アルニ由テ犯人ノ許可ヲ得テ旅行シタルヲ知ルニ足ルヲ以テ之ニ認印スルモノトス犯人旅券ニ記載スル所ノ淹滞日數ヲ終レバ直チニ歸途ニ上リ歸程日數内ニ居住ノ地ニ歸リ向キニ受ケタル所ノ旅券ヲ警察所ニ還納スベキモノトス

○本條第一項ハ監視ニ付セラレタル者ニ旅行ヲ許可スルノ規則ヲ定メ第二項ハ其既ニ旅行シタル後ニ遵守スベキ規則ヲ定ム前既ニ陳述セシ如ク監視ヲ受ル者ハ其期限間擅ニ進退スルヲ禁ゼラル、モノナリ然レモ商用其他已ムヲ得ザル事故アレバ其住所ヲ轉移シ又ハ旅行スルヲ得ザルヲ得ス是レ勢ノ已ムヲ得ザルモノニシテ第二十

七條ノ斷シテ定ムル所ナリ然レモ移轉ヲ許シ旅行ヲ許スノ規則アルヲ以テ唯ダ犯人ノ請フ所ニ一任シ其制限ヲ立テザレバ亦監視ノ效ヲ見ル能ハザルナリ故ニ警察所ニ於テ犯人ノ旅行スルヲ許シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ淹滞スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定セザルベカラストス是レ本條第一項ノ設アル所以ナリ既ニ此規則アリ且ツ犯人ニ旅行ヲ許可シタル證トシテ旅券ヲ付與シタルバ犯人ハ之ヲ旅行ノ地ノ警察所ニ出シ其恣ニ旅行シタルニ非ザルヲ證シ且ツ其旅券ニ記載シタル條件ヲ遵守シタルヲ歸後住所ノ地ノ警察所ニ證明セシメ爲メ官吏ノ認印ヲ受クベキモノトス是レ本條第二項ノ設アル所以ナリ

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ

歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

前條ノ規則ニ據レハ監視ニ付セラレタル者ノ旅行ハ其里程ヲ計リ滞留及ヒ往復日數ヲ限ルモノトス若シ其期限ヲ誤ツ時ハ自カラ懲戒ヲ受クベキハ論ヲ俟タサルナリ然レモ事故ノ已ムコトヲ得ザルモノアレバ限定ノ日數ヲ超過スルモ敢テ之ヲ咎メザルベシ其事故ノ已ムコトヲ得サルモノトハ何ツヤ即チ天災又ハ疾病等是レナリ天災トハ人力ノ制止スベカラサル災害ヲ云フ洪水、大風、地震ノ類是ナリ疾病トハ罹病ニ由リ進退自由ナラザル時ヲ云フ此等ノ災害ニ因リ無意ニシテ淹滞シタルハ實ニ已ムコトヲ得ザルモノナリ故ニ此場合ニ於テハ其事由ヲ淹滞ノ地ノ警察所ニ具申シ他日其淹滞ノ已ムコトヲ得ザルニ出タルコトヲ證明セシメ爲メ證書ヲ受クベシ而シテ歸着ノ日之ヲ旅券ニ添へ警察所ニ

差出スベキモノトス

○本條ハ犯人旅行中限定ノ日數ヲ超過シタル場合ヲ云フ監視期限内ハ進退舉動ニ付キ拘束ヲ受ルヲ以テ旅行ヲ爲スノ日數ヲ限定スルハ前條既ニ見ル所ナリ若シ故ナクシテ其日數ヲ超過スレバ其規則ニ背クヲ以テ自カラ懲戒ヲ受クベシ是レ日數ヲ限定シタル果效ナリ故ニ監視ニ付セラレタル者旅行スルニ於テハ必ス限定ノ日數内ニ歸ルベキ者トス若シ其限内ニ歸ラザルモ可ナリトセハ監視ノ效果シテ焉トニ在ル乎然レモ天災、地天、變災及ヒ疾病等ノ意外ノ障礙ニ因リ限定ノ日數ヲ超過スルコトナシト爲サス若シ此等ノ原因ニ由リ日數ヲ超過スルモ仍ホ怠慢ニ由リ期限ヲ誤ナタル者ト同一ノ懲戒ヲ加フルハ蓋シ不當ト謂フベキナリ故ニ正則ハ犯人旅行ノ日數ヲ超過スベカラザルモ

ノトシ變則ハ天災又ハ疾病等ニ因リ已ムヲ得ザル時ハ其日數ヲ超過スルモ妨ナキモノトス

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時

ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第二十二條ニ監視ニ付スル者ハ豫メ其住所ヲ定メシムベシトアリ故ニ犯人監視ニ付セラルニ當ツテ必ス先ツ其住居セントスル所ヲ定メザルベカラス而シテ其住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ之ヲ解放シテ發遣スベカラス其住居及ヒ引取人ナキトハ犯罪ノ時若クハ犯罪ノ後ニ於テ家ヲ傾ケ自己ノ家宅ナク又孤獨或ハ孤獨ニ非ザルモ頼ルベキ親屬故舊ナキ場合ヲ云フ故ニ監視ノ期限間、監獄ニ留置スルモノトス然レモ監視ニ付スル者ト主刑期限内ノ者ト居

ヲ同フスベカラザルヲ以テ監獄内ノ別房ニ住居セシムベキモノトス而シテ其留置スルノ間拱手シテ日ヲ消スベキニ非ザルヲ以テ工業ヲ與ヘ之ニ從事セシムルカ又ハ使役ニ就カシム監獄則第三十條ニ刑期滿限ノ後頼ルベキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得トアリ本條ノ意モ亦蓋シ此ニ在ル歟本條ハ當ニ住居及ヒ引取人ナキ者ニ就テ定ムルノミニ非ス其住居アル者ト雖モ遠隔ニシテ其地ニ歸ルノ旅費乏シキ時ハ亦監獄中ノ別房ニ留置シ次條ニ記載シタル場合ニ至ルヲ待タシムルナリ

○本條ハ監視ニ付スル者住所ナク又住所アルモ歸着スルノ資力ナキ者ニ就テ規則ヲ定ム夫レ監視ハ犯人ヲシテ一定ノ住所ニ居ラシメ警察官吏ヲシテ之ヲ監督セシムルモノ

ナリ故ニ豫メ犯人ノ住所ヲ定ムルヲ以テ監視ニ必要ナル
 條件トス若シ之ニ反シテ一定ノ住所ナキ者ヲ監視ニ付ス
 レバ英敏無比ノ警察官吏ト雖モ安ク能ク其目的ヲ全フス
 ルヲ得ンヤ蓋シ一定ノ住所ナケレバ出沒限リナク徘徊定
 メナク全國ヲ横行スルニ至リ其流弊復々竟ニ罪辟ニ陷ル
 ヤ殆ト觀ルガ如シ故ニ監視ニ付スル者住居及ヒ引取人ナ
 キ時ハ之ヲ解放セズ監獄ニ留置シテ工業又ハ使役ニ就キ
 貸錢ヲ得テ以テ住所ヲ定ムルニ至ラシム假令ヒ住所アル
 者ト雖モ其遠隔シテ旅費乏キ時ハ之ヲ得ルニ至ルマデ監
 獄ニ留置シテ其住所ナキモノト同一ノ規則ニ從ヒ處分ス
 ルモノトス論者或ハ曰ハシ假出獄免幽閉ヲ受タル者住居
 スベキ家ナキ時ハ屋舎ヲ貸與スルノ制アリ主刑期限内ノ
 囚ニシテ其待遇ノ厚キ此ノ如シ監視ヲ受ケタル者ノ住所

ナキハ主刑満期ノ後ニ在リ而シテ之ヲ監獄ニ留置シ之ニ
 屋舎ヲ貸與セザルハ其待遇甚ダ薄キニ似タリ豈ニ彼此ノ
 間權衡ヲ失スルモノナラスヤト其レ或ハ然ラシ然レモ假
 出獄免幽閉ヲ受タル者ハ到底其地ニ永住スベキモノナリ
 監視ニ付セラレタル者ハ然ラス主刑ノ短期三分ノ一カ乃
 至二三年間進退ノ拘束ヲ受ル者ニシテ其餘ハ復々自由ヲ
 得ルモノナリ是レ彼是ノ間權衡ヲ失スルト云フヨリ寧ホ
 刑質ノ異ナル果效ト云フヲ穩當トス待遇ノ厚薄アルニ非
 ザルヤ知ルベキナリ

第三十三條

監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ

得又ハ住居ノ地ニ歸着スルノ資力ヲ得タル時ハ其地ニ
 送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

監視ニ付セラレタル者住居ナク又ハ住居遠地ニ在テ歸着

スル資力ナキ者ハ監獄中ノ別房ニ留置スルノ制ハ前條ニ於テ既ニ定ムル所ナリ然レモ此等ノ者其留置限内ニ住居ヲ得又ハ引取人ヲ得或ハ工業ヨリ生ズル所ノ錢貨ヲ得タルニ由リ住居ノ地ニ歸着スルノ資力ヲ得ル時ハ第二十四條第二十五條ノ例ニ從ヒ監署ヨリ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシムベキモノトス其引取人ヲ得トハ前ニ分明ナラザル親屬ヲ發見スルカ又ハ故舊其情ヲ懸ニ引取ラソコトヲ承諾スルカヲ云ヒ其住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得ルトハ監獄ニ留置セラルノ間工業又ハ使役ニ服シ其賃錢ヲ得ルニ生ズルモノヲ云フ又其賃錢ヲ得タルニ由リ自カラ家宅ヲ設ケタル時モ亦本條ノ含蓄スル所ナリ

○本條ハ犯人其歸スル所ヲ得ルニ由リ監外ニ於テ殘期ノ監視ヲ執行セシムル場合ヲ云フ監視ニ付スベキ者ハ主刑ノ

終リタル時ヨリ其住所ノ地ニ送致スルヲ成規ト爲スハ第二十二條ニ於テ看ル所ナリ然レモ犯人住居スベキ家ナク又引取人ナク假令ヒ之レアルモ其地遠隔シテ旅行スルノ資力ナキニ於テハ已ムコトヲ得ス犯人ヲ監獄ニ留置スルハ前條ニ於テ亦既ニ看ル所ナリ而シテ其留置中空シク時日ヲ消スルハ固ヨリ監治ノ主義ニ違フヲ以テ必ス犯人ヲシテ工業若クハ使役ニ從ハシム一ハ以テ人事ノ盡スベキヲ知ラシメ一ハ以テ資産ヲ生セシム是亦前條ノ意ナリ然レモ犯人留置中引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スルノ資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致スベシ是レ當初ニ於テ爲スベキ處分ニシテ而シテ之ヲ爲スヲ得ザリシモノナレバ其爲スヲ得ルニ至レバ直ニ之ヲ爲スベキハ理ノ當サニ然ルベキモノナリ故ニ本條ハ監獄中ノ別房ニ留置シタル者引取人ヲ

得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資カヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ監視ヲ執行セシムルモノトセリ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

一罪ヲ犯シ其刑期限内又他罪ヲ犯シ初犯再犯ノ刑共ニ監視ニ付スベキトハ譬ハ偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ行使シタルニ付キ刑法第九十九條ノ例ニ因テ處斷セラレタル者其刑期限内人ヲ毆打創傷シテ兩肢ヲ折リタルニ付キ刑法第三百條ノ例ニ因テ處斷セラレハカ如シ初犯ノ偽造罪ニ付テハ六月以上二年以下再犯ノ毆打創傷罪ニ付テハ重罪ニ因リ其刑ノ短期即チ六年ノ三分ノ一即チ二年間監

視ニ付セラレモノ是ナリ又主刑既ニ終リ監視ニ付セラレタル者其期限内ニ再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付スベキモノトハ譬ハ偽造罪ノ主刑ヲ終リタル後六月以上二年以下ノ監視ニ付セラレ其期限内人ヲ毆打創傷シテ其兩肢ヲ折リタルニ付キ輕懲役ノ刑ニ處セラレタル後二年ノ監視ニ付セラレハカ如シ是レ前犯ニ付テノ監視中又後犯ニ付テノ監視ヲ受ルモノナリ此二箇ノ場合ニ於テ共ニ主刑ヲ先キニシ附加刑ヲ後ニスルハ當然ノ順序ナリ故ニ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ刑法第九十五條ノ例ニ從ヒ先ツ主刑執行ノ順序ヲ定メ其主刑終リタル時ハ前犯後犯ニ附加シタル監視ヲ合算シテ執行シ又監視ノ期間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付スベキ者ニ付テハ監視ヲ中止シテ先ツ再犯ノ主刑ヲ執行シ其刑期滿限ノ後前犯ノ監視ノ殘

期ト後犯ノ監視ノ期限トヲ通算シテ之レヲ執行スルモノトス

○本條ハ二犯共ニ監視ニ付スルヲ以テ其期限ノ算法ヲ定メリ刑ヲ併科セザルハ刑法ノ原則ナリト雖モ一罪ヲ犯シ既ニ其判決ヲ經タル後再ヒ罪ヲ犯ス時ハ亦之ヲ罰セザルベカラス蓋シ前犯ノ刑其犯人ヲ懲罰スルノ效驗ヲ見ハサハルニ由ル是ヲ以テ管ニ再犯ヲ論ズルノミナシス亦之ニ加等シテ罰ス是レ刑法ノ主刑ニ付テ定ムル所ナリ主刑共レ然リ附加刑豈ニ然ラザラソ乎若シ初犯再犯共ニ監視ヲ附加スベキ刑ナル時ハ初犯ノ監視ト再犯ノ監視ト前後ノ期限ヲ通算シテ之ヲ執行スベシ是レ主刑處分ノ例ニ由テ附加刑モ亦處分スルモノナリ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時

ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

刑法第四十二條ニ附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セザル時ハ第二十七條(主刑罰金ノ折算ヲ云フ)ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ストアリ本條ニ所謂ル罰金ハ主刑ノ罰金ニ非ズシテ附加ノ罰金ナリ而シテ一月内納完スルヲ能ハザリシヲ以テ該條ニ從ヒ之ヲ禁錮ニ換ヘタル者ナリ其禁錮ニ換ヘタル時ハ亦該條ニ從ヒ主刑滿限ノ後ニ於テ罰金ノ額ニ應シ更ニ若干日ノ輕禁錮ニ處スベシ是レ通常ノ成規ナリ然レモ本犯人ノ刑監視ヲ附加スベキ時ハ其主刑滿限後更ニ之ヲ禁錮ニ處セスシテ其日數ヲ監視ノ期限ニ算入スルモノトス譬ハ他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者刑法第二百八條ノ例ニ因リ六月以上五年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處セラレタリト

雖モ罰金ヲ納完セザルヲ以テ之ヲ禁錮ニ換ヘ刑法第四十七條ノ例ニ因リ主刑滿限後五日以上五十日以下ノ禁錮ニ處セラルヘキモ私印偽造ノ罪ハ刑法第二百十二條ノ例ニ從ヒ六月以上二年以下ノ監視ニ付スルヲ以テ罰金ヲ換ヘタル禁錮ヲ執行セズシテ其日數ヲ監視ノ期限ニ算入スルモノ是ナリ故ニ假ニ其監視ノ期限ヲ一年六月トシ禁錮ノ日數ヲ三十日トセバ一年六月ニ三十日ヲ加入シテ監視ノ期限ヲ一年七月ト爲スガ如シ

○本條ハ罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル日數ヲ監視ノ期限ニ算入スルヲ定ム罰金ハ固ト財産ヲ剝ヒテ其所有主ヲ罰スルノ刑ナリ故ニ罰金ハ之ヲ納ムルヲ得ベキ罪ヲ犯シタル者ニ附加シテ彼ノ無期刑ニ處セラルベキ者ニハ之ヲ附加セザルヲ通常ノ例トス蓋シ罰金ハ資力ノ有無ニ因テ其目的ヲ遂

ルモノナレバナリ然レモ罰金ヲ附加シテ之ヲ納完スルノ資力ヲ有スルモ仍ホ或ハ之ヲ納メザル者ナシトセス故ニ罰金ヲ禁錮ニ換ヘルノ制ヲ立テ以テ刑ノ目的ヲ無効ニ屬スルナカラシメリ然ニ罪ノ性質ニ因リ主刑ニ罰金ヲ附加シ且ツ刑期滿限後監視ニ付スルモノアリ受刑者若シ罰金ヲ納ムルヲ得バ主刑後一身ノ拘束ヲ受クルトナシト雖モ若シ資力ナク罰金ヲ納ムルヲ能ハザル時ハ之ヲ禁錮ニ換ヘ主刑後又更ニ若干日ノ禁錮ニ處セラレ其日數ヲ終リタル後監視ヲ受クベキナリ是レ其資力ナキニ因ルト雖モ洵ニ是ノ如クナレバ酷モ亦甚シキモノト謂フベシ故ニ本條ハ罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル日數ハ之ヲ監視ノ期限ニ算入スベキモノトス蓋シ人ノ自由ヲ貴重スルノ精神ニ出ツルモノナラシ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實情ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

刑法第四十一條ニ監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得トアリ即チ本條ノ處分ヲ謂フモノナリ而シテ其行政處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルニハ其恩典ヲ受ルニ適當ナル要件ナカレカラス其要件トハ何ゾヤ本條所謂ル規則ヲ謹守シ悔改ノ狀アルモノ是レナリ故ニ監視ニ付セラレタル者第二十七條ニ所謂ル四個ノ規則ヲ謹守シテ毫モ犯ストナキヲ要ス而シテ唯メ其規則ヲ守ルヲ以テ恩典ヲ受ルベキ充分ナル品行アルモノトモス又別ニ悔改ノ狀ナカルベカラス其悔改ノ狀トハ何ゾヤ犯人轉心回意シテ自カラ將來ハ善行ヲ爲ス

ベキノ狀顯然タルモノ是ナリ此二箇ノ要件ヲ具備スルニ非ザレバ監視ヲ免ズルニ至ラス然レモ假令ヒ瑣少ノ規則ニ背クトアルモ悔改ノ狀現然タルニ於テハ假ニ監視ヲ免スルト亦アルベシ此等ノ場合ニ於テハ警察官ハ其實相違ナキトテ認定シテ之ヲ内務司法ノ兩卿ニ上申シ其命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得ルナリ其内務司法兩卿ニ命ヲ請フハ内務卿ハ監獄ヲ管轄シ司法卿ハ刑事ヲ管轄スルノ職ニ在ルヲ以テナリ而シテ彼ノ所謂ル行政處分ハ行政官ニ非ザレバ之ヲ爲ス能ハサルニ由ルモノ亦此ニ在ル乎

○本條ハ假ニ監視ヲ免ズルヲ定ム監視ハ附加刑ナリ之ヲ附加スル所以ハ何ゾヤ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者ナ

リ故ニ監視ノ期限内犯人ノ遵守スベキ規則ヲ設ケ之ニ由
 テ其進退舉動ヲ拘束シ其行狀ヲ監視ス犯人若シ其規則ヲ
 謹守シ悛改ノ狀ヲ表シ將來復タ罪辟ニ陥ルノ恐レナキモ
 ノト認ルヲ得ベキ時ハ監視ノ主旨トスル條件ハ早ク既ニ
 其跡ヲ絶滅シタルモノナリ既ニ陷罪ノ恐ナシト認ルヲ得
 レバ則チ犯人ハ轉心回意シテ善良ニ遷移シタルヤ知ルベ
 シ亦何ヲ監視ヲ用フルヲ要セシ是レ監視ヲ免スル所以ナ
 リ然レハ監視ハ法律ニ於テ當初期限ヲ定ムルモノナリ法
 律ニ於テ定ムル所ノ期限ハ變更スベカラズ其變更スベカ
 ラザルノ故ヲ以テ法律ノ用意シタル所ノ條件既ニ則絶シ
 マル後仍ホ犯人ヲ拘束スルハ恰モ食傷ヲ恐レテ食セザル
 ガ如シ故ニ全ク監視ヲ免セズシテ假ニ之ヲ免ズルモノト
 セリ

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル

時ハ第二十七條第三及七第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第二十七條第三款ニ事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル
 時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シトアリ又第二十九條
 ニ警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時ハ其事由
 ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書
 類ヲ遞送ス可シトアリ是レ該二條ノ註釋ニ於テ既ニ開陳
 スルヲ以テ再ビ此ニ説クヲ要セス彼ハ監視ニ付セラレ
 タル者ニ就テ定メタリト雖モ是ハ假ニ監視ヲ免セラレタ
 ル者ニモ亦同一ノ規則ニ從フベキヲ定メリ故ニ假ニ監
 視ヲ免セラレタル者轉住セントスル時ハ該條ノ例ニ從フ
 モノトス

○本條ハ假ニ監視ヲ免ズル者ノ住居ヲ轉移スル場合ヲ定ム

假ニ監視ヲ免ズルハ犯人規則ヲ遵守シ悔改ノ狀アルニ由ルナリ故ニ其免セラレタル後ハ復タ第二十七條ニ記載スル所ノ條件ヲ遵守セザルモ敢テ刑法第一百五十五條ノ刑ヲ受ルコトナカルベシ然レモ全ク監視期限ヲ終リタル者ト假ニ監視ヲ免セラレタル者トノ間自カラ差別ナカルベカラス監視ヲ全免セラレタル者ハ則チ通常ノ人ナリ隨意ニ進退スルモ國法ノ範圍内ニ在ル以上ハ聊カ束縛ヲ受ルコトナカルベシト雖モ監視ヲ假免セラレタル者ハ然ラス即チ假ニ監視ヲ免シテ以テ隨意ニ進退スルモ敢テ妨ナキヤ如何ヲ試ルモノナリ故ニ第二十七條ノ第一第二ノ如キ條件ハ遵守セシメザルモ仍ホ犯人ヲ警察所ノ管内ニ住セシメ密ニ其進退舉動ニ注視スベシ是レ本條ヲ設テ以テ容易ニ犯人ノ轉住ヲ許サトル所以ナリ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

刑法第五十三條ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得云云トアリ故ニ假出獄ハ重罪輕罪ノ囚徒行狀嚴正ナルニ由リ刑期中與フル所ノ恩典ヲ云フ特別監視ハ第四十條第三ニ謂フ所ノモノ是ナリ本章凡テ十條假出獄特別監視ニ關スル規則ニシテ刑法中記載セザル所ノモノヲ掲ク蓋シ附則ノ意ナリ

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシムコトヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

假出獄ハ前既ニ説ルガ如ク刑法第五十三條ニ由テ與フル所ノ恩典ナリ然レモ囚徒ノ行狀如何ヲ知ルハ典獄ニ如ク者ナシ監獄則第九十六條ニ已決囚獄則ヲ謹守シ且悔改ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞與スベシ又同第九十八條ニ賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得トアリ蓋シ典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據ト爲スナリ故ニ典獄ハ犯人ノ行狀及ヒ刑名人獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシト上申スベキモノトス其行狀ヲ記スルハ獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アルヲ表スル爲メナリ其刑名ヲ記スルハ犯罪ノ常事犯ニシテ假出獄ヲ受クベキ性質タルヲ分明ニスル爲メナリ其入獄ノ年月ヲ記スルハ刑法第五十三條ニ所謂ル假出獄ヲ受クベキ期限ノ至レ

ルヲ計算センガ爲メナリ而シテ其假出獄ヲ許否スル者ハ内務司法兩卿ノ協議ニ因ルモノトス是レ内務卿ハ監獄ヲ管轄シ司法卿ハ刑ニ關スル一般ノ事務ヲ總轄スレバナリ○本條ハ假出獄ノ許可ヲ請求スル場合ヲ定ム假出獄ハ特別ノ恩典ナリ囚徒自己ノ權利ト看做シ請求スルモノニ非ザルナリ故ニ假出獄ノ特典ヲ受クベキ者ハ在監中其行狀正シク善良ニ遷リ及ヒ假出獄後ト雖モ正當ノ營業ヲ爲シ前途ノ目途ヲ誤ラザルヲ確表スルニ非ザレバ之ヲ受クルヲ得ス是ヲ以テ一大利益ヲ社會ニ起スニ至ルベシ何トナレバ此恩典タルヤ行狀方正ニシテ且ツ悔改ノ狀アル者ニ限リ與フルヲ以テ囚徒ヲシテ其入獄ノ當初ヨリ轉心回意善良ニ歸シ以テ此恩典ヲ受ケシメシヲ勸誘スレバナリ而シテ是レ唯ダ有期刑ニ處セラレタル者ニ限ラス無期

刑ヲ受ケタル者ト雖モ十五年ヲ經過スレバ亦此恩典ヲ受
クベキニ由リ自カラ行狀ヲ方正ニシテ再ヒ良民ノ社會ニ
出ルノ望ヲ起發セシムルニ至ル若シ之ニ反シテ眞ノ無期
刑トセバ遷善化良ノ意ヲ發スルモ到底前途ノ望ヲ拒絕ス
ルヲ以テ却テ破獄等ノ重罪ヲ犯シテ以テ獄中ノ苦楚ヲ免
レシトテ謀ルニ至ルベシ是レ假出獄ノ社會ニ益アル所以
ナリ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯
人ニ下附ス可シ

前條ノ例ニ從ヒ假出獄ヲ許シタル時ハ其證トシテ次條ニ
所謂ル證票ヲ犯人ニ下附スベキモノトス證票ハ監獄則ノ
卷末ニ出タス所ノモノト大同小異アルノミ次條ニ細説ス
○本條ハ假出獄ノ證票ヲ下附スベキヲ定ム假出獄ヲ許シタ

ル者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ其地ノ警察所ニ護送ス此場
合ニ於テ犯人ノ何人ニシテ何年何月何日ニ刑ヲ受ケ何年
何月何日ニ假出獄ヲ許サレ何年何月何日ヲ殘期ト爲ヌ等
ノ事ヲ警察所ニ於テ知ラザルベカラズ而シテ之ヲ知ルニ
犯人ノ自カラ陳述スルヲ以テ足レリトスル手否然ラス護
送者ノ口達ヲ以テ足レリトスル手未ダ以テ充分ト爲ヌニ
足ラス蓋シ典獄ノ確實ナル證アルヲ以テ始テ信據スベキ
モノトス是レ本條犯人ニ證票ヲ下附スベキヲ定ムル所
以ナリ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日
- 二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事
- 三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

前條所謂ル假出獄ノ證票ニハ四箇ノ條件ヲ記載スベキモノトス其書式左ノ如シ

假出獄之證票

某管下國郡村町番地住又ハ何某子弟妻女

族籍

何 某

某年 月 日 生
明治 何年 何月 何日 何月

身 材

監獄則ニ所謂ル名籍ノ
様本ニ照シ記載ス可シ

容 貌

上ニ同シ

罪質犯數

刑名刑期

及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ナ
ケ何年月日ヨリ執行何年月日満期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ約テ何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノ上此證書ト共

ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事
右之通心得サセ假出獄ノ證據ヲ與フル者也

某監獄署

長官何某印

明治何年月 日 署 印

○假出獄ヲ受タル者所有金アルトキハ此證據ノ裏面若クハ欄
内ニ左ノ二款ヲ附記スヘシ

- 一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送
リ遣シタル事
- 一警察官ヘ送り遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニ
テモ受取得ヘシト雖モ同官ニ於テ正當ノ入用ナリト認定
ノ上ニ非サレハ一次ニ之ヲ渡サレハキ事

○本條ハ假出獄證據ニ記載スヘキ條件ヲ定ム證據中第一ニ
本人ノ屬籍氏名等ヲ記載スルハ其人違ナキヲ證スルガ
爲メナリ又罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日ヲ掲グルハ其刑期
ヲ計算スルガ爲メナリ第二ニ殘期ヲ記載スルハ其年月間
假ニ出獄ヲ許シタルヲ證センガ爲メナリ第三ニ假出獄
中特別監視ニ付スベキヲ記載スルハ主刑滿限ノ者ト雖
モ仍^ホ監視ニ付ス况ヤ主刑中假ニ出獄ヲ許シタル者ハ殊更
ニ警察官ノ監視ヲ要スルヲ證センガ爲メナリ第四ニ假
出獄中更ニ罪ヲ犯シタル時ハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ
日數ヲ刑期ニ算入セザル事ヲ記載スルハ刑法第五十六條
ノ例ニ從フモノナリ此四箇ノ條件ハ假出獄ニ付キ公私共
ニ必要ノモノナルヲ以テ之ヲ證據ニ記シ犯人ニ與ヘリ

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財

産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請
シ許可ヲ受ク可シ

刑法第五十五條ニ假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ
以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得トアリ抑假ニ出獄ヲ
許スハ唯マ犯人ヲシテ空シク獄外ニ居住セシムルノ意ニ
非ス必ス職業ヲ營ミ生活ノ方法ヲ立テシムルノ意ナリ故
ニ監獄則第六十一條ニ假出獄ヲ受タル者ニ屋舎ヲ貸與ス
ルノ規則ヲ設ケ又同第六十二條ニ其親屬ヲ招キテ同居シ
又ハ嫁娶ヲ爲スコトヲ許セリ皆是レ營生ノ方法ヲ立ルコトヲ
勸誘スルノ精神ナリ然レモ刑法第三十五條ニ重罪ノ刑ニ
處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自
カラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ストアルヲ以テ犯人擅ニ財産ヲ
有スルコトヲ得ス而シテ一旦假出獄ヲ受ルニ於テハ營生ノ

方法ヲ立テザルヲ得ザルニ因リ自カラ財産ヲ要スルハ法
律ノ疾クニ豫見シテ刑法第五十五條ノ規則ヲ設ケタリ故
ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄ヲ受ケタル時ハ彼此
ノ法律規則ニ基キ治産若クハ營業セシムルコトヲ請願スルモ敢
テ妨ナキモノトス而シテ其請願ハ警察所ニ之ヲ爲シ其許
可ヲ受クベシ蓋シ犯人ニ属スル金錢ニシテ監署ニ預置シ
タルモノハ其假出獄ヲ許シ之ヲ居住ノ地ニ押送スル時共
ニ其地ノ警察官ニ送致スルモノトス是レ監獄則第二十七
條第二項ニ定ムル所ナリ

○本條ハ假出獄中財産ヲ治メ又ハ職業ヲ營ムヲ定ム夫レ犯
人ヲシテ在監中工業ニ従事スルハ人道ノ拱手坐食スベカ
ラザルヲ知ラシムルニ在リ若シ犯人工業ニ従事スルコト續
密ニシテ監治ノ主旨ニ悞服ニ改悛ノ效著シケレバ則チ賞

表ヲ與ヘ其賞表ハ假出獄ヲ具狀スルノ考據ト爲スモノナ
 リ然ハ假出獄ハ犯人ノ在監中工事ニ勉勵シタルノ效果ト
 謂フベキノニ其レ然ルヲ犯人假出獄ノ後ニ於テ刑法
 ニ主刑ノ終ルマテ治産ヲ禁ズルノ正條アルノ故ヲ以テ仍
 ホ財産ヲ治スルヲ得ス職業ヲ營ムヲ得スト爲サバ恰モ羈
 キタル馬ニ捷ツカ如ク同時ニ進退ヲ爲サシムルモノナリ
 豈ニ是レ法律ノ主意ナラシヤ故ニ重罪ノ刑ニ處セラレタ
 ル者假出獄中自カラ財産ヲ治メ又ハ職業ヲ營マント請フ
 時ハ之ヲ許スヲ以テ至當ノ處分ト爲ス然レモ法律ハ其治
 産營業ヨリ或ハ再ビ罪辟ニ陷ルノ恐レナキニ非ザルヲ以
 テ其方法ハ典獄ヲシテ常ニ指示スベキモノトシ典獄ハ何
 時ニテモ犯人ヲ召喚スルヲ得ベキモノトス監獄則第二
 十八條ニ定ムル所ノ意ハ蓋シ此ニ在ル歟

第四十二條

假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシ
 メ出獄ノ日典獄ヨリ其諸票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居
 ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

假出獄ヲ許サレタル犯人ハ其期限中特別監視ヲ受クベシ
 故ニ其許可アル以前ニ於テ豫メ本人ノ住居スベキ地ヲ定
 タシム猶ホ監視ニ付セラレタル者ノ住所ヲ定ムルガ如シ
 住居ノ地既ニ定マレバ犯人出獄ノ日典獄ハ第三十九條ノ
 例ニ從ヒ第四十條ニ所謂ル證票ノ謄本ヲ添ヘ其住居ノ地
 ノ警察所ニ護送スルモノトス其護送ハ監獄則第二十七條
 ノ例ニ從フベシ該條第一項ニ曰ク假出獄ヲ許サレタル者
 ニハ其證票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ
 押送スヘシト是ナリ警察所ニ於テハ犯人ノ送致ヲ受ケ特
 別ノ監視ヲ執行スベシトス特別監視ハ次條以下ニ於テ定

ムル所ノモノヲ云フ

○本條ハ假出獄ヲ受タル者ヲ其住所ニ送致スル規則ヲ定ム
假出獄ヲ受タル者ハ未ダ主刑滿限セザルヲ以テ之ヲ警察
ノ監視ニ付スルハ勿論ニシテ其監視モ通常ノ監視ニ非ス
次條以下ノ規則ニ從フベキナリ而シテ監視ハ前既ニ説ル
カ如ク犯人ヲ一畫地ニ定居セシメザレバ其目的ヲ達スル
能ハザルヲ以テ出獄ヲ許スノ前ニ於テ豫メ其居住スベキ
地ヲ定メシメ此ニ之ヲ護送スルハ總テ通常監視ニ付スベ
キ者ニ付テ定メタル所ノ規則即チ第二十二條ノ意義ト取
テ異ナルヲナシ故ニ今再ビ贅セス讀者其レ之ヲ諒セヨ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四
條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ
適用ス

假出獄ヲ許サレタル者ヲ特別監視ニ付スベキハ前條既ニ
見ル所ナリ然レハ特別監視ハ必スシモ其規則ヲ特別ニセ
ス亦通常監視ノ規則ヲ用フ故ニ第二十三條第二十四條第
二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ニ記載スル所
ノ監視諸規則ノ例ヲ用フルモノトス

○本條ハ特別監視ニ付スル者ノ規則ヲ定ム特別監視ト通常
監視トハ固ト異ナルベシ何トナレバ一ハ刑期未滿ノ者ヲ
付スルモノニシテ一ハ刑期滿限ノ者ヲ付スルモノナレバ
ナリ然レハ監視ノ一點ニ付テハ敢テ異ナルヲナシ唯ダ一
ハ嚴ニシテ一ハ稍ヤ寬ナルノミ故ニ通常監視ノ例ヲ適用
シテ敢テ害ナシト爲スモノハ乃チ之ニ從ヒ特別ニ例ヲ設
ケザレバ不可ナリト爲スモノハ更ニ其條件ヲ設ク而シテ
其特別ニ係ルモノハ次條以下ニ之ヲ定メ其他ハ各本條前

既ニ定ムル所ニ從フ是レ本條ニ於テ他ノ數條ヲ適用スベキヲ定ムル所以ナリ

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ

條件ヲ遵守ス可シ

一 每週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復二日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限中四箇ノ規則ヲ遵守スベキモノトス其規則左ノ如シ

第一 每週間一度云云ハ第二十七條第一款ニ記載シタル所ノ通常監視ニ付セラレタル者ニ付テ定メタル規則ト取テ異同アルナキヲ以テ再ビ贅セス然レモ唯ダ異ナル所ノモノハ彼ハ毎月二度警察所ニ出ルモノトシ此ハ每週一度警察所ニ到ルモノトナス是ナリ彼ハ寬ニシテ此ハ嚴ナリ蓋シ特別ノ注意此ニ於テ見ルベキ歟

第二 酒宴遊興云云ハ第二十七條第二款ニ記載スル所ト同一ナレバ此ニ再説セス

第三 事故アリテ云云亦第二十七條第三款ト異ナルヲナシ然レモ彼ハ警察所ノ許可ヲ受ル時ハ日本全國何ノ地ニ

轉居スルモ妨ナキモノトシ此ハ其住居ノ地外、他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サレモノトス一ハ移住ノ地ヲ限ラズ一ハ移住ノ地ヲ限レリ亦特別監視ト通常監視トノ別アル所以ナリ

第四旅行云云モ亦第二十七條第四款ト同一ノ精神ニ出ツ然レハ彼ハ事故アルニ於テ其事由ヲ具申シ警察所ノ許可ヲ受ルニ於テハ何ノ地ニ旅行スルモ妨ナキモノトシ此ハ往復一日程ヲ過グル地ニ旅行スルヲ許サストス是レ彼此ノ間ニ差別アル所以ナリ而シテ該條ニ於テハ旅行ヲ爲ス事由ヲ具申シテ其許可ヲ受クベキモノトシ本條ニ於テハ此等ノ事ヲ掲ケス故ニ人或ハ旅行ノ許可ヲ得ザルモ元ト往復一日程ヲ過ギザルモノナルヲ以テ更ニ妨ナシト爲スモ知ルベカラス是レ決シテ然ラス夫

レ刑期満限ノ後ニ於テ犯人ヲ付スベキ監視ナルモ仍ホ上ニ謂フ所ノ規則ヲ定ム況ヤ刑期限内ニアル犯人ノ監視ニ於テヲヤ更ニ嚴ナル規則ヲ設クルモ豈ニ之ヲ寬ニスルノ理アラシヤ此ニ旅行ノ事由ヲ具申シ其許可ヲ受クベキヲ明記セザルハ其事タル蓋シ言ヲ俟タズシテ知ルベキモノナレバナリ

○本條ハ特別監視中遵守スベキ條件ヲ定ム第二十七條ニ監視期限内遵守スベキ四箇ノ規則ヲ定メテ該條註釋ニ於テ既ニ其理由ヲ説明シタリ本條ニ定ムル所ノ者モ儘ニ寬嚴ノ差別アルノミニテ其精神ハ同一ナリ故ニ此ニ再ビ贅セズ

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

特別監視ノ期限間ハ通常監視ノ期限間ヨリ更ニ警察官吏ノ注視ヲ要スルモ敢テ通常監視ノ期限間ヨリ疎ナルヲアルナシ其他ハ通常監視ノ例ト異ナラス

○本條ハ第二十八條ニ定ムル所ノ規則ト同一ナレバ再ビ説明セズ該條ノ註釋ヲ讀ハ自カラ本條ノ義ヲ知ルニ足ルベシ

第四十六條

假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レ

ハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ

假出獄ハ刑期限内ノ犯人ニ許ス所ノモノナリ故ニ其出獄中ニ刑期滿限スベシ此場合ニ於テハ假出獄モ亦從テ消滅スルニ付キ第三十九條ノ例ニ從ヒ嚮キニ下付シタル假出獄證票ハ自カラ無用ノ片紙ニ屬スベキナリ故ニ刑期滿限

ノ日至レバ證票ヲ警察所ニ還納スルモノトス蓋シ警察所ハ假出獄ノ始ヨリ特別監視ヲ執行シテ犯人ノ管轄ヲ爲セシト雖モ既ニ其刑期滿限ニ至レルヲ以テ共ニ其管轄ヲ解シベケレバナリ然レハ證票ハ元ト典獄ヨリ下付シタルモノナレバ警察所ハ犯人ノ之ヲ還納スルヲ受テ其管轄之ヲ出シタル典獄ニ遞送スベキモノトス

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日至レバ前項ノ例ニ從ヒ其處分ヲ爲スベシト雖モ若シ其犯人主刑滿限ノ後、監視ニ付スベキモノナル時ハ第二章ノ例ニ從フモノトス假令ハ偽造貨幣ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ悔改ノ狀アルヲ以テ假出獄ヲ許シ其出獄中、主刑滿

限スト雖モ刑法第九十一條ノ例ニ從ヒ六月以上二年以下ノ監視ニ付スガ如シ第二章ノ例ニ據レバ監視ニ付スベキ者ハ豫メ其住居ノ地ヲ定メシメ典獄又ハ檢察官ヨリ其地ノ警察所ニ犯人ヲ護送スルモノト爲セ且本條ノ場合ニ於テハ犯人既ニ已ニ其居住ノ地ニアルヲ以テ復々典獄ノ護送ヲ煩ハスヲナク警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從ヒ處分スベキナリ

○本條ハ假出獄中主刑ノ滿限シタル場合ヲ云フ第一項ハ監視ヲ附加セザル者假出獄中刑期滿限シタル場合ヲ云ヒ第二項ハ監視ヲ附加シタル者假出獄中主刑ノ滿限シタル場合ヲ云フ第一項ノ場合ハ犯人ノ刑主刑ニ止リ附加刑ヲ科セザルヲ以テ假出獄中主刑滿限スレバ則チ之ヲ放免セザルベカラス故ニ本人會テ受ケタル假出獄ノ證票ヲ還ス納

ベキモノトス第二項ノ場合ハ然ラス犯人ハ主刑附加刑共ニ受ルヲ以テ主刑ノ期限ハ滿チタリト雖モ其滿限ノ日ハ則チ附加刑ヲ執行スルノ初日ナリ故ニ犯人ヲ警察所ニ留置キ第二章ニ所謂ル監視ノ例ニ從ヒ處分スベキモノトス然レモ假出獄證票ハ既ニ無用ニ屬スルヲ以テ第一項ノ例ニ從ヒ之ヲ警察所ニ還納セシメ第二十六條ノ例ニ從ヒ監視ノ票ヲ下付スルモノトス

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シ

第四十二條ニ假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ原本ヲ添へ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シトアリ故

○假出獄ヲ許サレタル者ハ必ス住所又ハ引取人ヲ要ス然レド犯人不幸ニシテ住所ナシ又引取人ナキ時ハ出獄ヲ許スモ其居ルベキ地ナキヲ以テ却テ本人ヲシテ困難ニ至ラシムベシ故ニ此場合ニ於テハ第三十二條ニ記載シタル監視ニ付セラレタル者住居ナク引取人ナキ時ノ例ニ從ヒ犯人ヲ監獄中ノ別房ニ留置スルモノトス

○本條ハ假出獄ヲ許スベキ者ノ住所ナク又引取人ナキ場合ヲ定ム而シテ其規則ノ理由ハ第三十二條ノ註釋ニ之ヲ説キタルヲ以テ再ビ此ニ贅セス讀者之ヲ諒セヨ

第四章 刑事裁判費用

刑法第四十五條ニ刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但共費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムトアリ其裁判費用トハ附則第四十八

條ニ定ムルモノニ其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ定ムトハ即チ此附則ヲ云フ故ニ本章ハ刑事ノ裁判費用及ヒ其金額ニ關スル規則ヲ定ムルモノナリ

第四十八條

豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人

通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十

一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用

ト爲ス

治罪法第七十條ニ豫審判事ハ檢事民事原告人又ハ被告人ヨリ證人トシテ指名シタル者ヲ呼出ス可シ其第三項ニ又原被ノ指名セサル者ト雖モ豫審判事ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出ス可ヲ得トアリ又同第二百八十六條ニ豫審ニ於テ訊問シタル證人ハ更ニ之ヲ呼出ス可ヲ得トアリ

故ニ豫審公判トモニ證人ヲ呼出スモノトス又治罪法第百九十一條ニ豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ必要ナリトスル時ハ學術職業ニ因リ鑑定スルヲ得可キ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ又同第百九十二條ニ鑑定人ハ書記局ヨリ呼出狀ヲ以テ之ヲ呼出ス可シトアリ又同第百五十六條ニ若シ譯者証者文字ヲ知ラザル時ハ通事ヲ命ス可シトアリ其第二項ニ被告人又ハ對質人國語ニ通セザル時亦同シトアリ又同第百九十條ニ證人ハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費日常ヲ要ムルヲ得又第二百條ニ鑑定人及ヒ通事ニハ旅費、給料其他相當ノ費用ヲ給與ス可シトアリ治罪法中醫師ニ付テ別ニ給與ノ事ヲ定メスト雖モ鑑定人中ニ自カラ含蓄スルモノナリ此五種ノ人物ニ給與スベキ日常其他ノ費用ノ外本

則第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ稱シテ刑事ノ裁判費用ト爲ス

○本條ハ刑事ノ裁判費用ヲ定ム抑モ裁判費用ハ其裁判ヲ醸シタル者之ヲ支辨スルヲ原則トス何トナレバ裁判費用ヲ科スルハ刑罰ニアラスシテ賠償ノ性質トス而シテ賠償ノ原則タル人ニ損害ヲ與ヘタル者之ヲ償フベケレバナリ本條所謂ル五種ノ人物ニ給與スベキ日常其他ノ費用ハ訴訟事件ヲ醸シタル者ノ作爲スル所ナレバ其人ノ支辨スベシ而シテ其費用ハ裁判ヲ爲スニ付キ必要トスル所ナレバ之ヲ稱シテ裁判費用ト云フ

第四十九條 日常旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ
 日常 五拾錢
 旅費一里 拾錢

止宿料 貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出
ノ地ニ滞在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地
ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

前條ニ所謂ル五種ノ人物ニ給與スル日當旅費止宿料ノ金
額ヲ定ム日當ハ日ノ手當ナレバ一日金拾錢トシ旅費ハ旅
行ノ費用ナレバ一里毎ニ拾錢トシ止宿料ハ裁判所ヨリ呼
出サレ其所在ノ地ノ旅舍又ハ其他ノ家ニ滞留スル費用ナ
レバ一宿毎ニ二十五錢トス然レモ豫審公判ニ付キ證人、醫
師、鑑定人、通辯人、翻譯人ヲ呼出シタル時ハ必ス日當、旅費、止
宿料ヲ給與スルニ非ス其者ノ住居裁判所ヨリ三里以外ノ
地ニ在ルニ非ザレバ旅費ヲ與ヘス而シテ其旅費ハ往復共
ニ給スルモノトス蓋シ治罪法第十九條ニ據レハ三里以上

八里以下ヲ以テ一日ノ猶豫ヲ加フルモノトス故ニ三里以
外ノ地ニ在ル者ヲ裁判所ヨリ呼出ス時ハ一日ノ猶豫ヲ與
ヘザルヲ得ス而シテ其一日ハ即チ旅行ノ日トス是レ三里
以外ノ地ニ住居スル者ニ非ザレバ旅費ヲ與ヘザル所以ナ
リ此旅費ヲ與フベキ者ハ裁判所々在ノ地ニ住居ナキヲ以
テ旅舍或ハ其他ノ家ニ止宿セザルヲ得ス故ニ其滞在中ハ
止宿料ヲ與フルモノトス裁判所ヨリ三里未滿ノ地ニ住居
スル者ハ呼出ヲ受ルニ付キ旅行及ヒ他家ニ止宿スルヲ要
セス故ニ旅費止宿料ヲ與ヘス然レモ日當ハ居住ノ遠近ニ
拘ハラズ豫審公判ニ付キ呼出シタル者ニ給與ス

○本條ハ日當、旅費、止宿料ノ金額ヲ定ム治罪法第百九十條ノ
末項ニ本條ノ場合ニ於テハ豫審判事其金額ヲ定メ之ヲ冒
渡ス可シトアリテ其所謂ル本條ノ場合トハ日當旅費等ヲ

指スモノナリト雖モ此附則ニ於テ日當旅費ノ金額ヲ定メ
 一ハ一日五拾錢一ハ一里拾錢トス此金額ハ固ヨリ之ヲ定
 ムベキノ原則アルニ非ス唯々時態ノ如何ニ因リ物價ノ高
 低ニ因リ斟酌折衷シテ之ヲ定ムルモノナリ本條日當五拾
 錢、旅費一里拾錢、止宿料一宿二十五錢ト爲スハ目今ニ於テ
 ハ相當ノ定額ト爲ス〔旅送ノ車賃ハ概テ一里ニ付キ五錢以上拾錢以下
 五錢以下ヲ通價トシ若シ滞在シテ一月ヲ以テ定レハ一〕其旅行セザル者
 日二十五錢一月七圓五十錢ヲ以テ通常ノ食住費トナス
 ニ旅費及ヒ止宿料ヲ與ヘザル理由ハ亦論ヲ俟タズシテ知
 ルベキナリ故ニ贅セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アル
 ニ非サレハ之ヲ給與セス

治罪法第九十條ニ證人ハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費、日當
 ヲ要ムルヲ得トアリテ證人タル者ニ旅費日當ヲ請求ス

ベキ權ヲ與ヘリ故ニ裁判所ハ證人ニ旅費、日當、止宿料ヲ與
 フベキ義務アリト雖モ本人ノ請求ヲ待タズシテ之ヲ與フ
 ルニ非ス必ス其請求アルヲ待テ之ヲ給與スルモノトス故
 ニ若シ證人請求ヲ怠リ又ハ遺忘シ或ハ請求ヲ快トセザル
 時ハ裁判所ハ之ヲ給與セス而シテ其金額ハ明治十四年九
 月二十日太政官第四十五號ノ布告ニ因リ證人ヲ呼出サン
 ト請フ者ヨリ豫納シタル所ノモノナルヲ以テ若シ證人ニ
 給與セザル時ハ之ヲ還付スルヤ否未ダ規則ヲ設ケラレス
 ト雖モ其豫納シタル目的ニ使用セザレバ之ヲ還付スルヲ
 以テ至當ノ處分ト謂フベキナリ

○本條ハ證人ノ日當、旅費、止宿料ヲ給與スル場合ヲ定ム夫レ
 證人ノ日當、旅費、止宿料ハ裁判所ノ呼出ニ應シ出廷シタル
 ニ付キ費耗シタルモノナレバ證人ヲシテ之ヲ負擔セシム
 ヲカフ

ベカラザルハ固ヨリナリト雖モ又證人ハ社會ノ公益ノ爲メ或ハ被告人ノ利益ノ爲メ裁判所ニ出デ、其自カラ信認スル所ノ證憑ヲ陳述スルハ道義上ノ義務ト謂フベシ故ニ法律ハ證人ニ費用請求ノ權ヲ與ヘ自カラ道義上ノ民事ノ責ヲ負擔セザルモノトス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルヲアル可シ

治罪法第九十條第二項ニ若シ日稼ヲ以テ生業トスル者ナル時ハ旅費日當ノ外日稼高ニ等シキ償金ヲ要ムルヲ得トアリテ證人日稼ヲ以テ生活ヲ爲ス者ハ該條ニ從ヒ償金ヲ要ムルノ權アリ故ニ證人之ヲ要ムル時ハ第四十九條ニ定ムル所ノ日常旅費ノ外、日稼高相當ノ償金ヲ給與セザ

ルベカラス其日稼ヲ以テ生活スル者トハ日ニ工商ノ業ヲ爲シテ生計スル者一般ヲ云フニ非ス凡ソ工タル者商タル者誰カ日ニ營業シテ生活ヲ計ラザラシヤ蓋シ皆然リ彼ノ日稼ハ朝ヲニ若干ノ金ヲ携ヘテ市ニ物品ヲ購ヒ終日之ヲ販賣シテ暮ニ瑣小ノ利益ヲ得テ以テ僅ニ一日ノ計ヲ爲ス者又或ハ日ニ若干ノ備錢ヲ得テ以テ漸衣食スル者ノ類ヲ云フ故ニ裁判所ニハ此等ノ益金若シハ備錢ノ額ニ等シキ償金ヲ與フベキモノトス然レモ醫師ノ如キ代言人ノ如キ獨リ其人ノ職能ニ依リ毎日診斷ヲ爲シ代言ヲ爲スニ付キ若干ノ金額ヲ得ル者ハ固ヨリ其所得ニ因リ一日ノ生活ヲ計ルモノニアラザレモ證人トシテ出廷シタルノ故ヲ以テ斯ノ診斷斯ノ代言ヲ爲ス能ハス爲メニ得ベキ所ノ金錢ヲ全失セントスル者ハ日稼トシテ償金ヲ要求スルノ權アリヤ

否甚々疑ヲ懷キ易シ是レ未ダ一定セザル所ナリト雖モ若シ償金ヲ與フルノ主意損害ヲ償フニ外ナラザレバ亦日稼ノ中ニ含蓄スベシ

○本條ハ日稼ヲ以テ生業トスル證人ニ償金ヲ給スルヲ定ム前條ノ註釋ニ於テ既ニ説ケルガ如ク人民ハ社會公益ノ爲メ證人ト爲ルノ義務ヲ道義上ニ保ツト雖モ法律ハ其義務アルノ故ヲ以テ證人タル者ニ損害ヲ與フルモ敢テ妨ナキモノト爲サス故ニ日當旅費止宿料ヲ定メテ以テ證人ニ與フルノ制ヲ立タリ法律ノ精神其レ既ニ然リ然ラバ日ニ職業ヲ營ミ幾金ヲ得テ以テ僅ニ其日ノ生計ヲ爲ス者ヲシテ證人トナシ其職業ヲ休メシムルニ忍ブノ理アラソヤ故ニ旅費日當ノ外ニ相當ノ金額ヲ給與シテ損失ヲ償フモノトス

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル

翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

醫師ノ解剖ヲ爲シ化學者ノ分析スル等皆ナ藥品ヲ要セザルナシ故ニ其費用シタル所ノモノハ之ヲ償ハザルベカラズ又翻譯ハ多少ノ時間ヲ要セザレバ本業スベカラズ其二三時間ニシテ譯成スルモノアリ又數日ニシテ漸ク成ルモノアリ故ニ時間ノ長短ニ因リ日當ノ外別ニ相當ノ翻譯料ヲ給與スベキモノトス然レモ世上翻譯料ハ皆ナ一葉若干錢ト定メ何時間若干錢ト定メス故ニ此ニ數多ノ時間云云ト云フト雖モ譯料ハ必ス一葉ニツキ若干錢ヲ以テ其勞ニ報ユルモノナラン

○本條ハ解剖舍密ノ費用及ヒ翻譯料等ヲ定ム治罪法第二百條ニ鑑定人及ヒ通事ニハ旅費給料其他相當ノ費用ヲ給與

ス可シトアリ今醫師ノ解剖ヲ爲シ化學者ノ分析ヲ爲スヲ
 要スルハ何等ノ爲メニスルカ蓋シ鑑定ヲ爲スニ過ギザル
 ナリ又翻譯ヲ爲スヲ要スルハ何等ノ爲メニスルカ蓋シ事
 ヲ通スルニ過ギザルナリ然バ該條ニ謂フ所ノ鑑定人及ヒ
 通事トハ即チ本條ニ謂フ所ノ解剖、舍密及ヒ翻譯ヲ爲スモ
 ノト異ナルコトナシ又該條ニ謂フ所ノ相當ノ費用トハ即チ
 本條謂フ所ノ解剖、舍密、翻譯等ニ充ツベキ費用ニ異ナラス
 然レモ治罪法ハ唯メ鑑定人及ヒ通事ニ旅費、日常ノ外、相當
 ノ費用ヲ給與スベキ大綱ヲ定ムルニ過ギズシテ其細目ハ
 之ヲ他ノ規則ニ讓レリ其他ノ規則トハ即チ此附則是ナリ
 而シテ此等ノ給料ヲ定ムル所以ハ何ツヤ蓋シ鑑定ヲ爲シ
 通譯ヲ爲スモ證據ヲ陳述スルト同シク亦俱ニ人民ノ義務
 ナリト雖モ之ヲ一般ノ人民ニ命ズルニ非ス必ス學術職業

ニ因ラザルヲ得ザレバ其鑑定ノ爲メ若クハ通譯ノ爲メニ
 消シタル費用ヲ償ハザルベカラザレバナリ 〔治罪法註釋第
 二百條參看〕

第五十三條

裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前

ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第四十八條ニ所謂ル刑事ノ裁判費用ノ言渡ヲ受ケ未タ之
 ヲ納メザル前ニ於テ其言渡ヲ受ケタル者死亡スル時ハ其
 相續人ヨリ之ヲ納ムベキモノトス然レモ相續人ニ三種ア
 リ先人ノ氏名ヲ相續スルモノ先人ノ財産ヲ相續スルモノ
 先人ノ氏名財産共ニ相續スルモノ是ナリ此三種ノ相續人
 ノ内何レノ相續人ヨリ裁判費用ヲ徵收スベキヤ其氏名財
 産共ニ相續スル者ハ先人民事上ノ責ニ任ズルハ勿論ナリ
 ト雖モ其氏名ノミヲ相續シ或ハ其財産ノミヲ相續スルモ
 ノ、責任ニ付テハ一ノ問題ナキ能ハス抑モ相續人先人民

事上ノ責ニ任ズルハ其財産ヲ相續スルニ因ルナリ然レモ
 若シ財産ノミヲ相續シテ氏名ヲ相續セザレバ其實ハ相續
 ナルモ通常一般ノ贈與ニ異ナルヲナシ唯々所有主ノ死後
 ニ得ルヲ以テ之ヲ贈遺シタルモノト云フノ同シカラザル
 ノミ若シ此者ヲシテ裁判費用ノ責ニ任セシメバ恰モ隣叟
 ヲリ其死前ニ贈與シタル物件アルノ故ヲ以テ其死後隣叟
 ノ負債ノ責ニ任ズルガ如シ然ハ前ニ物件ヲ贈與シタル時
 共ニ移付シタル所有權ハ之ヲ贈與シタル者ノ死亡ニ因テ
 全ク消滅セザルヲ得ス豈ニ此ノ如キ理アラシヤ又之ニ反
 シテ先人ノ氏名ノミヲ相續シテ其財産ヲ相續セザレバ表
 面ハ相續人ナルモ其實ハ名ヲ襲フニ過ギス若シ此者ヲシ
 テ先人民事上ノ責ニ任セシメバ恰モ先人ハ死亡スルノ故
 ヲ以テ其會テ有セザル所ノ所有權ヲ得ルモノ、如シ豈ニ

亦此ノ如キ理アラシヤ一ハ死亡ノ故ニ人ノ所有權ヲ消滅
 セシメ一ハ死亡ノ故ニ人ノ所有權ヲ得ル總テ理ナキガ如
 シ然レモ本邦古來ノ慣習ニ據ルニ氏名ノ相續人ハ其氏名
 ニ關スル民事上ノ責ニ任ズルモノトス故ニ本條所謂ル相
 續人ハ氏名財産共ニ相續スル者並ニ氏名ヲ相續スル者ヲ
 云フ

○本條ハ相續人死者ノ裁判費用ヲ擔任スルヲ定ム刑ハ一人
 ニ止ルヲ以テ原則ト爲スト雖モ賠償ハ其損害ヲ與ヘタル
 者ノ財産限り之ヲ辨スルヲ原則トス抑モ裁判費用ノ性質
 ハ刑ニアラズシテ賠償ナリ既ニ賠償ナレハ其原則ニ從ヒ
 財産ヲ有スル限り之ヲ支辨セザルベカラス而シテ犯人
 之ヲ支辨セザル前ニ於テ死亡シタル時ハ犯人ノ財産ハ其相
 續人ニ屬スルヲ以テ相續人ハ犯人ト同一ノ責ニ任スベキ

ノ理ノ當サニ然ルベキモノナリ是ノ本條裁判費用ヲ相續
人ヨリ徴收スル所以ナリ

第五章 賠償處分

賠償ハ概シテ刑事ヨリ生ジタル損害ノ償却ヲ云
フモノナリ故ニ治罪法第二條ニ所謂ル私訴ノ目
的ノ一タル贓物ノ返還モ亦賠償ノ中ニ含蓄スル
モノトス

第五十四條

贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還
付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ
請求ニ因リ還給セシムル者トス

刑法第四十八條ニ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害
者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若
シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被

害者ニ還付ストアリ故ニ贓物犯人ノ手ニアレバ被害者ノ
私訴ヲ起スト否ニ拘ハラズ之ヲ還付スルハ勿論ナリ然レ
モ贓物通貨ナル時ノ外犯人ノ手ニ在ルハ十中ノ二三コシ
テ多シハ典賣シテ之ヲ金錢ニ換フルヲ以テ他人ノ手ニ落
ルヲ通常ノ事トス此場合ニ於テ犯人ニ非ザル者ヨリ其所
有品ノ贓物タルヲ以テ直チニ之ヲ差押へ被害者ニ還付ス
ルコトヲ得ス故ニ被害者ノ請求アルヲ待テ之ヲ還給セシム
ルモノトス其請求トハ即チ被害者ノ私訴ヲ爲スヲ云フ
○本條ハ贓物還給ニ付キ請求ヲ要スル場合ヲ定ム贓物犯人
ノ手ニ在ル時ハ固ト其所有權ヲ有セザルヲ以テ被害者ノ
請求ナキモ之ヲ還付スルハ論ヲ俟タズ然レモ其贓物犯人
ノ手ヨリ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時其輾轉ノ模様ニ由リ
或ハ純然タル所有權ヲ得或ハ被害者ヲ除クノ外社會公衆

コ對シテハ純然タル所有權ヲ得ルヲ以テ單ニ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ被害者ニ還給セシムルヲ得ス蓋シ其他八ノ之ヲ得タルハ條約又ハ買取ニ由ラザルナケレバナリ若シ此二途ニ由ラズシテ贓物ヲ得タル者ハ刑法第三百九十九條以下ノ罪ヲ犯スモノナレバ即チ犯人ナリ裁判所ノ職權ヲ以テ直チニ之ヲシテ還給セシムルモノトス

第五十五條

贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ

買取シタル物品ハ其公商ニシテ若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス

賣買ハ公商ニ由ラザレバ純然タル所有權ヲ得ル能ハザルハ原則ナリ故ニ贓物輾轉シテ犯人ノ手ヨリ他人ノ手ニ涉リタル時其物品公商ニ由リ買取シタルモノニ係レバ買取主ヨリ直チニ還給セシムルヲ得ザルモノトス若シ其還

給セシムルヲ要スル時ハ辯キニ賣渡シタル公商又ハ其物品ノ原主ヨリ買取シタル者ニ原價ヲ償フベキモノトス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ム

ヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シテ轉價ヲ求ムルヲ得

贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時其物品若シ公商ニ由ラズシテ買取シタルモノニ係レバ買取主ハ其還給ヲ促サルモ敢テ之ヲ拒ムヲ得ザルモノトス其公商ニ由ラズシテ買取シタルトハ犯人タルヲ知ラズシテ其者ヨリ物品ヲ買取タル類ヲ云フ然レモ買取者ハ固ト贓物タルヲ知ラズシテ價金ヲ辨シ之ヲ買取シタルニ由リ被害者ニ對シテ直チニ償ヲ求ムルヲ得ザレバ賣者ニ對シテハ轉價ヲ求ムルノ權ヲ有シタルモノトス

○本條ハ贓物ヲ公商ニ由リ又ハ公商ニ由ラズシテ買取シタ

ル果效ヲ定ム所有權ヲ得ルノ方法凡ソ五種アリ曰ク贈與
 曰ク贈遺曰ク購買曰ク相續曰ク契約是ナリ此五者ノ中購
 買ニ由テ得ル所ノ所有權ハ必ス二箇ノ原質ヲ要ス其一ハ
 則チ公商ニ由リ購買スルモノトシ其二ハ則チ價金ヲ出シ
 テ購買スルモノトス若シ此二箇ノ原質ノ内一ヲ欠ケバ購
 買ニ由テ純然タル所有權ヲ得タルモノト謂フベカラス何
 トナレバ公商ニ由リ購買スルモ價ヲ投ゼザレバ未ダ以テ
 純然タル所有權ヲ得ルト爲スベカラス又價金ヲ投スルモ
 公商ニ由リ購買セザレバ未ダ以テ純然タル所有權ヲ得ル
 ト爲サレバナリ本條第一項ハ所謂ル二箇ノ原質ヲ具有
 スルヲ以テ假令ヒ買取シタル物品ノ贓物ニ係ル時ニテモ
 買取者ハ其物品ニ付テ純然タル所有權ヲ得タルモノナリ
 故ニ公商若クハ被害者ハ直チニ買取者ニ還給ヲ請求スル

ノ權ナシ強テ還給ヲ要スル時ハ其物品ノ原價ヲ償フベキ
 ナリ然レド第二項ハ二箇ノ原質ノ内一即チ公商ニ由ラス
 シテ買取シタル物品ナルヲ以テ假令ヒ充分ノ價金ヲ投シ
 タルモ買取者ハ其物品ニ付キ純然タル所有權ヲ得タルモ
 ノニ非ス故ニ被害者ハ直チニ買取者ニ還給ヲ請求スルノ
 權ヲ有シテ買主者ハ之ヲ拒ムノ權ナシ唯ダ賣者ニ對シテ
 損害ノ償ヲ求ムルヲ得ルノミ

第五十六條

贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓
 物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシテ受取
 タル者ハ典主ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得

贓物ノ贈與ヲ受ケ又ハ之ヲ典物トシテ受取タル者ハ其物
 品ニ付キ純然タル所有權ヲ有シタルモノニ非ザレバ論ヲ
 俟タメ故ニ訴訟起リタル時其贓物ヲ收受シ又ハ典物トシ

テ受取タル者ノ手ニ贓物現在スレバ被害者ヨリ還給ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ザルモノトス然レハ典物トシテ受取タル者ハ必ス相當ノ金錢ヲ典主ニ與フルヲ以テ被害者ニ對シテハ償金ヲ求ムルノ權ナシト雖モ典主ニ對シ之ヲ求ムルノ權ヲ有スルモノトス

○本條ハ贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者ノ權利義務ヲ定ム贓物ハ元ト不正ノ物ナリ故ニ贓物ノ所有權ハ被害者之ヲ有シ第五十五條第一項ノ例ニ由ルニ非ザレバ何人ト雖モ其所有主タルヲ得ス是ヲ以テ故ナク物品ノ贈與ヲ受ケタル者其贓品タルコトヲ發覺スル時ハ原主〔被害者〕ニ之ヲ還給スルノ義務隨テ生ス但マ其贓物現ニ收受者ノ手ニ在リテ被害者ノ之ヲ請求スルヲ要ス此場合ニ於テ還給ヲ拒ムコトヲ得ザルハ蓋シ收受者ハ收受ニ由テ利益ヲ得還給ニ

由テ損害ヲ被ルコトナキノミナラス未ダ其物品ニ付キ所有權ヲ得ザルモノナレバナリ典物トシテ贓物ヲ受取タル者ハ故ナクシテ之ヲ受タル者ト自カラ差異ナカルベカラス何トナレバ典物ハ物品ヲ領收シテ之ニ相當ノ金額ヲ貸與スルモノナレバナリ然レハ典物ハ受寄ノ物品ニ過ギザルヲ以テ之ニ由リ所有權ヲ得ルモノニ非ス故ニ其物品現在スル時ハ被害者ヨリ還給ノ請求ヲ拒ムコトヲ得ス然レハ既ニ其物品相當ノ金額ヲ貸與スルヲ以テ被害者ニ之ヲ請求スルノ權ナキモ典主ニ對シテハ還給ニ由テ受タル損害ノ償ヲ求ムルノ權アルモノトス

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

贓物交換シテトハ贓物轉轉シテ他人ノ手ニ涉ルニ由リ他

物ト交換スルモノヲ云フ斯ノ如ク交換スルモ其物品消滅セズ現ニ存在スル時ハ其現主ノ之ヲ得タルハ公商ニ由ルモノカ否ヤヲ區別シ若シ公商ニ由ルモノナレバ第五十五條第一項ノ例ニ從ヒ若シ公商ニ由ラザルモノナレバ其ノ第二項ノ例ニ從ヒ還給ノ處分ヲ爲スベキモノトス

○本條ハ贓物交換シテ現在スル場合ヲ定ム凡ソ贓物ハ何人ノ手ニ在リト雖モ被害者其返還ヲ請求スルノ權ヲ有ス故ニ贓物輾轉シテ他人ノ手ニ涉リ他物ト交換スルモ其物品現ニ存在スル時ハ其返還ヲ請求スルヲ得ベシ然レモ社會ハ其物品ノ贓ナルヲ知ラザルニ由リ之ヲ買取スベシ被害者返還ヲ求ムルノ權ヲ有スルノ故ヲ以テ彼ノ贓ナルヲ知ラズシテ買取シタル者ヨリ何レノ場合ニ於ケルモ還給セシムルヲ得ルト爲サバ商業社會ニ一大危險ヲ生ズ

ベキナリ故ニ第五十五條ノ例ニ從ヒ公商ニ由ルト否トヲ區別シテ還給ノ處分ヲ爲スベキナリ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

贓物現在スル時ハ第五十五條、第五十六條、第五十七條ノ例ニ從ヒ處分スルヲ得ベシト雖モ贓物現在セザル時ハ此等ノ例ニ從ヒ處分スルヲ得ス而シテ其贓物不現在ニ三種アリ第一ハ其已ニ費用シタル時トス其費用ハ物品消耗シテ形ヲ滅シタルモノ是ナリ第二ハ識別スベカラザル時トス其識別スベカラザルトハ物品存在スルモ贓物ト否トヲ辨知スル能ハザルモノ是ナリ第三ハ其所在ノ知レザル時トス其所在ノ知レザルトハ物品已ニ消耗ニ屬シタルカ又

現在スルカ之ヲ分明ニスル能ハザルモノ是ナリ此場合ニ於テハ皆テ物品ノ還給ヲ請求スルモ其目的ヲ達スル能ハザルヲ以テ其不還給ヨリ生ズル損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得ルモノトス

○本條ハ贓物ノ現在セザル場合ヲ定ム贓物ノ還給ハ前既ニ説ルガ如ク被害者ノ請求或ハ請求ナキモ之ヲ爲サザルベカラザルハ論ヲ俟タザルナリ然レモ是レ唯々其物品ノ現在スル時ニ於テ行フヲ得ベクノ不現在ノ時ニ於テハ行フ能ハザル亦論ヲ俟タズノ知ルベキナリ故ニ贓物現在セザルキハ其代價ヲ以テ還給ニ代フベシ是レ刑法第四十六條ニ記載スル所ノ意ニシテ而シテ本條ノ損害ノ賠償ヲ要求スルヲ得セシムル所以ナリ

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯

罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但矢火ハ此限ニ在ラス

人ノ名譽ニ關シタル損害トハ惡言ヲ流布シテ人ノ名譽ヲ毀損シタルヲ以テ其人ノ營業若クハ交際上ニ多少ノ影響ヲ及ボシ爲メニ生ジタル損害ヲ云フ殺傷ニ關シタル損害トハ人ヲ殺傷シタルニ因リ醫藥ノ價又ハ殺傷ノ爲メニ營業ヲ休メ又ハ殺傷ノ爲メニ死亡シタルヲ以テ其妻子ノ生計上ニ生シタル損害ノ額ヲ云フ犯罪ノ爲メ現ニ生ジタル損害トハ犯人罪ヲ犯シタルガ爲メ被害者ノ受ケタル損害ニシテ其種類一様ナラズト雖モ現ニ知了スルヲ得ベキ損害ヲ云フ此ノ如キ場合ニ在テハ凡テ賠償ヲ請求スルヲ得ルモノトス然レモ失火ノ如キハ其損害大ナルモ本條ノ例ニ從フモノニ非ス

○本條ハ損害ノ賠償ヲ請求スルモキ權ヲ定ム抑モ要償ノ權ハ
 刑事ニ於ケルモ民法ノ原則ニ基キタルモノナリ其原則ニ
 曰ク他人ニ損害ヲ被ラシムル所爲ハ其損害ヲ來タシタル
 者之ヲ償フベシト蓋シ是レ當然ノ理ナリ故ニ名譽又ハ殺
 傷其他ノ犯罪ヨリ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スル爲メ法
 律ハ被害者ニ私訴ヲ爲スノ權ヲ與ヘリ是レ治罪法第二條
 ニ於テ定ムル所ナリ而シテ此賠償ハ何ヲ用テ爲スカト云
 へバ則チ損害ニ相當スルノ金額ヲ以テスルニ過ギス何ト
 ナレバ此等ノ損害ハ概テ變シテ金銀ノ損失トナラザルハ
 ナク因テ金銀ヲ以テ之ヲ抵填スルハ自然ノ勢ナレバナリ
 是レ必ズシモ至理ニ出ルモノニ非ザレトモ古來天下諸國ノ
 習慣ナルヲ以テ亦本邦ニ於テモ之ヲ適用スルノミ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑

事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判已ニ終リタル後
 ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス

第五十五條以下第五十八條ニ至ルマデ記載シタル贓物ノ
 還給及ヒ第五十九條ニ記載シタル損害ノ賠償ハ其此等ノ
 事件ヲ醸生シタル犯罪ヲ審判スル刑事ノ裁判所ニ請求ス
 ルヲ得ルモノトス蓋シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求ス
 ル私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラヌ公訴ニ附帶シテ刑事裁
 判所ニ之ヲ爲スヲ得ルハ治罪法ニ於テモ亦既ニ之ヲ定
 メリ然レモ若シ其裁判所ニ於テ本案ノ裁判官渡アリタル
 後ハ既ニ附帶スベキ公訴ナキヲ以テ民事裁判所ニ於テ通
 常民事ノ訴トナシテ之ヲ請求スベキモノトス是レ治罪法
 ニ於テ私訴ハ別ニ民事裁判所ニ之ヲ爲スヲ許シタルモ
 ノト同一ノ義タリ本條還給賠償ノ訴ハ犯罪ヲ審判スル刑

事裁判所ニ請求スルヲ得ト記載シテ請求スベシト記載
 セス是ニ由テ之ヲ觀レバ還給賠償ノ訴ハ被害者ノ訴擇フ
 所ニ任シ民刑ノ裁判所ノ内孰レカーニ之ヲ爲スヲ得ル
 ハ蓋シ言ヲ待タズシテ知ルヘキナリ

○本條ハ私訴ヲ爲スベキ裁判所ヲ定ム法律ニ於テ贓物ノ還
 給損害ノ賠償ヲ請求スルハ民事裁判所ニ之ヲ爲スモ又ハ
 刑事裁判所ニ之ヲ爲スモ被害者ノ撰フ所ニ任セリト雖モ
 本條ハ本案ノ審判前ニ於テハ特ニ刑事裁判所ニ請求スル
 ヲヲノミ掲ゲテ審判已ニ終リタル後ニ至ラザレバ民事裁
 判所ニ請求セザルモノ、如ク記載セリ其故何ヤ蓋シ贓
 物ノ還給損害ノ賠償ハ固ト犯罪ニ生ジタルヲ以テ其犯
 罪事件ヲ審判スル刑事裁判所ニ於テ之ヲ請求スル時ハ其
 請求ノ根據タルベキ犯罪ヲ殊ニ證明セザルモ已ニ公訴ノ

法廷ニ提起シタルヲ以テ充分ノ利益ヲ得ルニ由ルナリ其
 犯罪事件已ニ判決アリタル後ハ民事裁判所ニ非レバ請求
 スルヲ得スト爲スハ其理已ニ分明ナレバ亦茲ニ贅セス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ
 請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得
 得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ
 可シ

前條ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ハ刑事裁判所ニ於テ之
 ヲ請求スルヲ許セリ故ニ該裁判所ニ於テ此等ノ請求ヲ
 爲スニハ自カラ其法式ヲ要スルモノ、如シ而シテ此附則
 ハ之ヲ設ケス只々通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ請求スルヲ
 得ベキモノトス其通常ノ文書トハ劫奪若クハ騙取セラ
 ル、所ノ物品ノ還給又ハ其亡失或ハ殺傷等ヨリ生ジタル

損害ノ賠償ヲ請求スル旨ヲ一片ノ紙面ニ記載スルヲ以テ充分ト爲スモノヲ云フ然レモ民事裁判所ニ於テ請求スル者ハ自カラ民事ノ訴訟程式アルヲ以テ其式ニ従フベキモノトス

○本條ハ贓物ノ還給、損害ノ賠償ヲ請求スル方法ヲ定ム此請求ヲ爲スハ即チ治罪法ニ所謂ル私訴ヲ爲スモノナリ而シテ此私訴ハ被害者若シハ其代理人之ヲ刑事裁判所又ハ民事裁判所ニ爲スヲ得ルモノトス若シ刑事裁判所ニ於テ此請求ヲ爲ス時ハ別ニ程式ヲ定メス通常ノ文書又ハ言語ヲ以テスルモノトセリ何トナレバ被害者ハ通常ノ人民タルヲ以テ概テ書式等ヲ知ルモノ稀ナレバナリ之ニ反シテ若シ書式ヲ設テ其式ニ違ヒタル書面ヲ以テ訴フル時ハ其式ニ違フノ故ヲ以テ裁判所ハ之ヲ受理セズ被害者其改竄ヲ

アラズ

要スルガ爲メ時間ヲ消費シ訴訟ノ延滞ヲ來タスノ恐ナシトセス是レ刑事裁判所ニ於テ請求ヲ爲スニハ書式ヲ定メザル所以ナリ然レモ民事裁判所ニ於テハ自カラ訴狀ノ程式ヲ定メ一般ニ用フル所ノモノアリ且ツ此裁判所ニ損害ノ賠償、贓物ノ還給ヲ請求スルハ通常民事ノ訴訟ニシテ之ヲ私訴ト稱スベカラス故ニ民事裁判所ニ此請求ヲ爲ス者ハ必ズ其程式ニ従ハザルヲ得ス是レ理ノ當ニ然ルベキモノナリ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

前數條ニ所謂ル贓物ノ還給、損害ノ賠償ハ被害者ヨリ何時ニテモ犯人ニ對シ請求スベキモノナリ然レモ被害者未ダ之ヲ請求セザル前或ハ之ヲ請求シタルモ未ダ裁判確定ニ

至ラザル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルコトヲ得ルモノトス

○本條ハ犯人ノ相續人ニ對シ私訴ヲ爲スコトヲ定ム夫レ贓物ノ還給、損害ノ賠償ノ責ハ民事上ノ責ニシテ刑罰ノ事ニ非ザルナリ刑事ニ於テハ刑止一人ヲ以テ原則ト爲スヲ以テ罰金ノ刑ハ犯人ノ死亡ト共ニ消滅スルト雖モ民事上ノ責ハ犯人死亡スルノ故ヲ以テ共ニ消滅スルモノニ非ス若シ犯人ノ死亡ト共ニ消滅スルモノト爲セハ社會ノ契約ナル者ハ全ク跡ヲ絶スルニ至ラザル豈ニ奇怪ナルモノナラズヤ故ニ犯人贓物ノ還給、損害ノ賠償ノ義務ヲ盡サズシテ死スル時ハ其相續人ニ對シ被害者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトセリ相續人ハ第五十三條ノ註釋ニ説クヲ以テ再ヒ此ニ贅セス

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

犯人私訴ノ責ニ任スベキ旨裁判官渡ヲ受ケ而シテ贓物ヲ還給セス損害ヲ賠償セザル時ハ其旨ヲ以テ再ヒ刑事裁判所ニ訴フルコトヲ得ザルヲ以テ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○本條ハ私訴ノ裁判官渡ヲ履行セザル場合ヲ云フ刑事裁判所若シハ民事裁判所ノ裁判官渡ハ其確定スルノ日ニ於テ之ヲ履行セザルベカラズ是レ其旨渡ヲ受ケタル者ノ義務ナリ故ニ被告ハ其義務ヲ盡サザル時ハ被害者ヨリ之ヲ請求スルノ權アルハ固ト論ヲ待タズト雖モ一旦刑事裁判所ニ於テ私訴ニ付キ裁判官渡ヲ爲シタル後ハ其附帶スベキ

公訴モ既ニ裁判言渡アリタルモノナレバ再ビ之ヲ刑事裁判所ニ訴フルコトヲ得ス故ニ被害者ハ其前ニ裁判言渡アリタルコトヲ根據トシテ更ニ民事裁判所ニ訴ヘ被告人ニ對シ身代限ノ處分ヲ請求スルノ權ヲ有スベキモノトス是レ本條ノ設アル所以ナリ

刑法附則注釋畢

明治十五年一月廿三日版權免許

明治十五年三月 出版

定價金七拾錢

註釋人

京都府平民

織田純一郎

東京本所區龜澤町二丁目十五番地

出版人

東京府平民

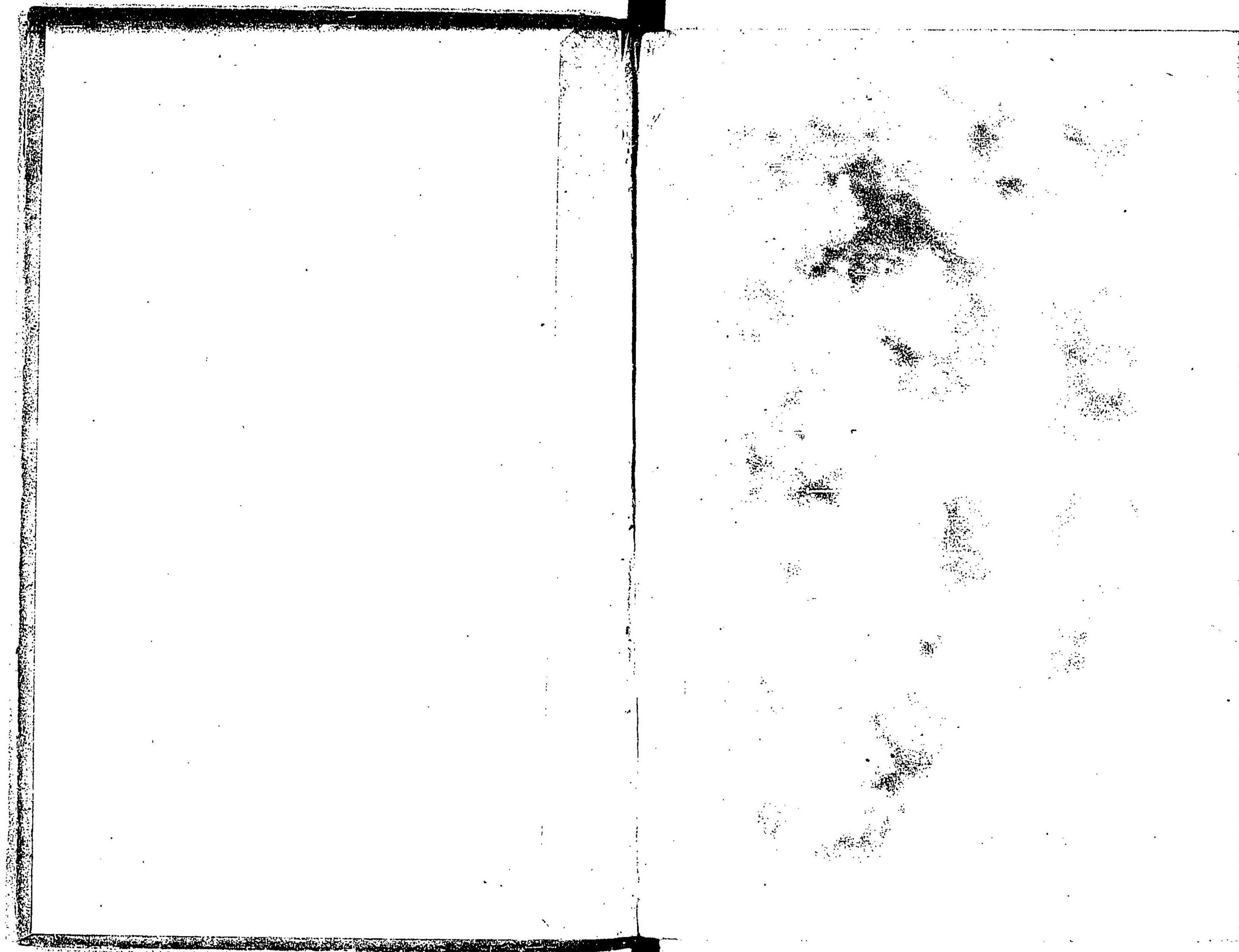
坂上 半七

同日本橋區吳服町十二番地

肆 書

東甲尾 大坂
京府張

吉	須	報	丸	山	稻	北	內	片	此	梅	吉	松	前	柳
川	原	家	中	田	畠	藤	野	村	原	岡	村	川	原	喜
半	鐵	告	善	市	佐	茂	傳	東	正	龜	平	九	善	喜
			兵	兵	兵	右	衛	四				兵	兵	兵
七	二	社	七	衛	衛	衛	門	郎	助	七	助	衛	衛	衛



東泉園書

東泉園書類

二冊	五三號	五架	二九函	男	類
----	-----	----	-----	---	---

九ノ二